

阪南市埋蔵文化財報告 36
向出遺跡範囲確認調査報告書

2 0 0 5 年
阪南市教育委員会

はしがき

向出遺跡は、阪南市の東部を流れる中山川と菟紙川に挟まれた河岸段丘上に位置します。昭和62(1987)年度に本市教育委員会が実施した埋蔵文化財分布調査で、多数の石器やその石材の破片などが採取され、付近における遺跡の存在が想定されていました。

平成9(1997)年に国道26号(第二阪和国道)の建設工事に伴い、(財)大阪府文化財調査研究センターが行った発掘調査により、西日本最大級とされる縄文時代の土坑墓群が発見されました。

この調査を受け、本市教育委員会では国の史跡指定をめざし、国庫補助事業として、向出遺跡における、縄文時代の遺構の拡がりを把握するべく範囲確認調査を平成10(1998)年度から4か年の継続事業として、実施しました。その結果、土地借用上の制約が若干ありましたが、ある程度その範囲が明らかになりました。

本書は、その範囲確認調査の報告書です。今後は、この報告をもとに、史跡指定を視野に入れた向出遺跡の保存、保護をはかってまいります。

最後になりましたが、調査に多大なるご協力をいただきました土地所有者の皆様に感謝を申し上げますとともに、今後ともご尽力をたまわりますようお願いいたします。

2005年3月

阪南市教育委員会
教育長 川村一郎



第1図 阪南市位置図

例　　言

1. 本書は阪南市教育委員会が、平成10(1998)～13(2001)年度にかけて国庫補助事業として計画し、生涯学習推進課が担当した向出遺跡範囲確認調査報告書である。
2. 調査は、阪南市教育委員会生涯学習推進課三好義三、田中早苗を担当として実施した。本書内で示した標高は、T.P.であり、方位は既製の地形図などを使用したものと除いて磁北である。
3. 調査にあたっては、調査地の土地所有者など関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
4. 縄文土器については岡田憲一氏(当時奈良大学大学院)、骨片については安部みき子氏(大阪市立大学)の所見による。記して感謝の意を表したい。
5. 本書の執筆・編集は、上記の調査担当者が行なった。また、実測図などの作成は、下記の調査従事者による。
6. 本書における記録は実測図、写真、カラースライドなどに保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい

(調査従事者)

宇沢克之、伊庭 勉、辻野 勝、岡本利市、太田敏治、平坂博司、上野高男、坂本善成、橋本松雄、溝上 満、和田旬世、井上祥子、井上 進、島田万帆、池田佳世子、福森由記、外池美渡里、滝本奈保子、吉田 稔、谷口紗枝子、川嶋宏樹、田中達也、芝 尚幸、頭師康一郎、門善寛之、大槻隆雄、森脇祐美、金田直識、桜井三男、進藤智美

目 次

第1章 調査にいたる経過	4
第2章 歴史的環境	
第1節 阪南市の歴史	5
第2節 向出遺跡の歴史	7
第3章 調査の成果	
A 地区 00-2区 a·bトレンチ	12
99-3区	18
B 地区 99-2区 a·bトレンチ	24
99-1区	30
00-4区	32
00-7区	36
C 地区 98-4-1区·00-5区	37
98-4-2区 a·bトレンチ	49
00-6区	55
01-1区	56
第4章 おわりに	61
報告書抄録	62

第1章 調査に至る経過

向出遺跡は昭和62(1987)年度に阪南市教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査で新たに発見された遺跡である。この調査では若干の縄文土器と多数の石器が採取された。遺跡発見後、周辺では小規模な調査は行われてきたものの、遺跡の詳細がわかる成果はなかった。

昭和63(1988)年、阪南市の幹線道路である一般国道26号(第二阪和国道)が阪南市自然田から岬町淡輪間の9kmについて延伸が計画された。予定地内には久保田遺跡、向出遺跡、向山遺跡、井関遺跡の存在が知られており、平成8(1996)年、(財)大阪府文化財調査研究センターによって試掘調査が行われた。

向出遺跡に関しては、上記の試掘調査の結果を得て、平成9(1997)年8月から平成10(1998)年3月までに発掘調査が行われ、縄文時代の大墓地群が発見された。

調査終了と同時に開催された現地説明会では、阪南市民だけではなく全国から多くの人が駆けつけ、阪南市教育委員会でも平成10(1998)年11月に講演およびシンポジウムを行い、向出遺跡の重要性を呼びかけるとともに、工事主体者である建設省近畿地方建設局浪速国道工事事務所と協議を重ね、この貴重な遺跡の保存を協議するとともに、文部省と史跡指定を考慮した話し合いを行ってきた。

今回の報告書は史跡指定を踏まえ、遺跡の範囲確認調査を平成10(1998)年度より4年間に渡って行ってきた成果である。

第2章 歴史的環境

第1節 阪南市の歴史

ここでは、主に阪南市の縄文時代について紹介したい。

現在、市内で縄文土器が確認されているのは、男里川水系では尾崎清水遺跡、馬川北遺跡、馬川遺跡、下出北遺跡、高田遺跡、向出遺跡⁽¹⁶⁾、亀川北遺跡、亀川遺跡⁽¹⁷⁾。佐智川水系では神光寺(蓮池)遺跡、鳥取遺跡、鳥取南遺跡が揚げられる。

尾崎清水遺跡、馬川北遺跡、馬川遺跡、下出北遺跡は阪南市北東部の男里川右岸の海拔3mから12mの平地に位置する。近年の発掘調査では縄文時代晩期の土器が出土しているが、それに伴う遺構は発見されていない。

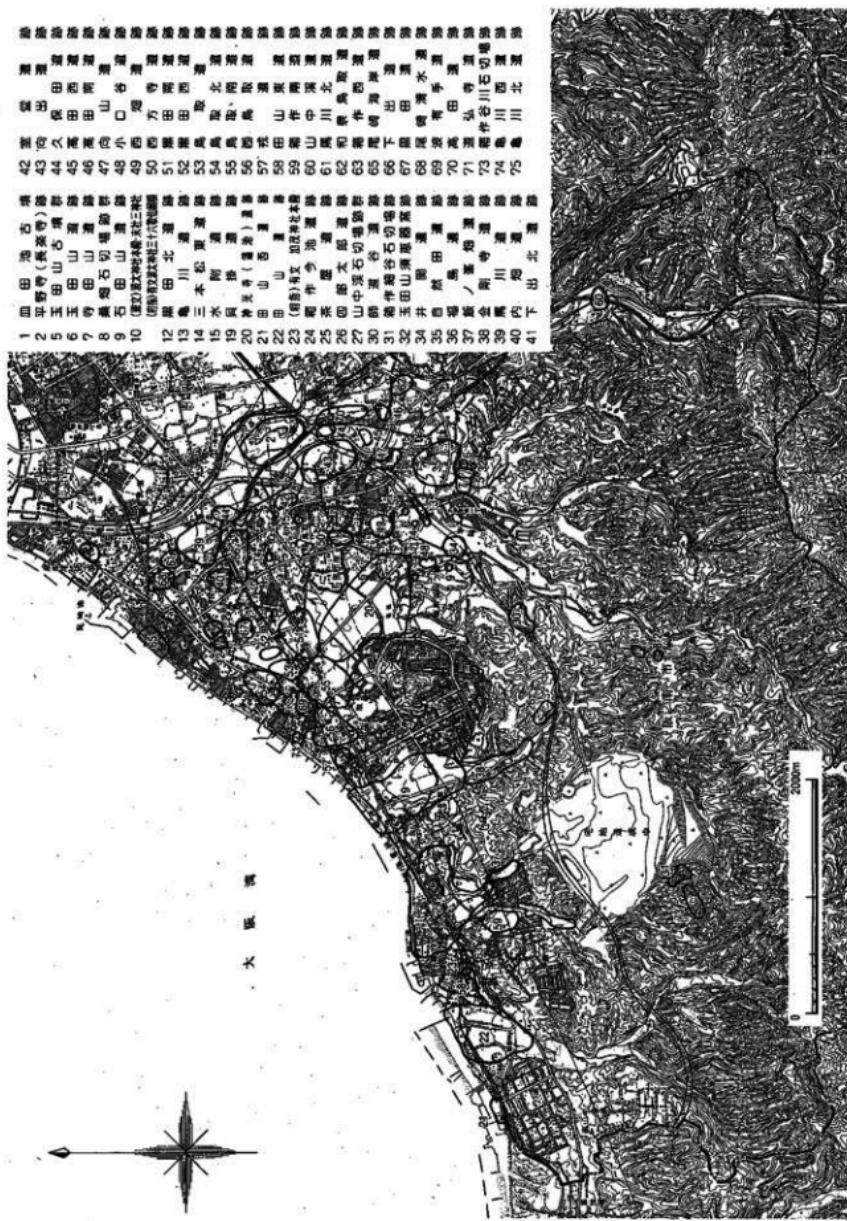
高田遺跡、向出遺跡、亀川北遺跡、亀川遺跡⁽¹⁷⁾は男里川上流の、山中川と菟砥川に挟まれた台地上とその左岸に位置する。向出遺跡は昭和62(1987)年度に阪南市教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査で大量の石器と若干の後期の縄文土器が採集され、周知された。その後、平成8(1996)年度に本市教育委員会が行った発掘調査では、遺構は伴わないものの、縄文時代後期の土器が出土した。また、平成9(1997)年度、(財)大阪府文化財調査研究センターの発掘調査で、後期から晩期の大墓地群が発見され、その性格が解明されつつあるが⁽²⁾、他の遺跡についての詳細は不明である。

久保田遺跡は昭和63(1988)年の埋蔵文化財分布調査で発見された遺跡で、縄文土器は発見されていないものの石器の散布が確認された。平成5(1993)年に本市教育委員会が行った久保田遺跡、高田遺跡の発掘調査では、久保田遺跡の南部を東西方向と高田遺跡の西端に当たる部分を掘削した。この調査では高田遺跡の西端に当たるところで縄文時代後期の土器片が出土した。久保田遺跡は川の氾濫原であったらしく、平成8(1996)年、(財)大阪府文化財調査研究センターが行った久保田遺跡の発掘調査でも、鎌倉時代の川床が検出されている⁽¹⁸⁾。

鳥取遺跡は佐智川の左岸、鳥取南遺跡、神光寺(蓮池)遺跡は佐智川の両岸の平地部に拡がる遺跡である。鳥取遺跡からは時期不明の縄文土器が、鳥取南遺跡からは縄文時代晩期の土器が出土している。神光寺(蓮池)遺跡で採取された有茎尖頭器は市内最古の遺物で、縄文時代草創期のものである。しかし、同時代の遺構や土器は出土していない。その他にも石器類は採取されていたが、平成15(2003)年、本市教育委員会が行った発掘調査で時期の詳細は不明であるが、初めて縄文土器が出土した⁽¹⁹⁾。

その他、山地部の玉田山遺跡、岩崎山遺跡、寺田山遺跡、石田山遺跡からは土器は伴わないものの石鏃を初めとした、石器類が採取されている⁽¹⁹⁾。

また、本市に於いて、佐智川以西では現在のところ縄文土器は出土していない。



第2図 阪南市埋蔵文化財分布図

第2節 向出遺跡の歴史

向出遺跡は本市と泉南市との境界である男里川支流の菟紙川と山中川にはさまれた段丘上に位置する。

昭和62(1987)年度に阪南市教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査で、新たに発見された遺跡である。この調査では縄文時代の石器が多く採取され、縄文時代晚期の土器が若干確認された。⁽²⁾

その後、88-3区、88-6区⁽⁴⁾、92-1区⁽⁵⁾、93-1、93-3区⁽⁶⁾、95-1区⁽⁷⁾、96-1区、96-2区⁽⁸⁾、97-1区⁽⁹⁾と小規模な調査が行われてきたが、96-1区、96-2区の調査で中世期の包含層からではあるが、縄文時代後期～晚期の土器が出土した。しかし、縄文時代の遺構は確認されなかった。

平成9(1997)年度に(財)大阪府文化財調査研究センターが行った、国道26号(第二阪和国道)延長に先立つ8975m²にも及ぶ発掘調査で縄文時代の墓地群が発見された。⁽¹⁰⁾その結果、平成10年(1998)年より史跡指定を考慮した範囲確認調査を4年に渡って行うこととなった。

それと平行して、98-1区、98-2区、98-3区、98-5区、02-1区⁽¹¹⁾、03-3⁽¹²⁾の調査が行われたが、縄文時代の遺構、遺物は確認されなかった。03-3区⁽¹³⁾の調査は、(財)大阪府文化財調査研究センターが行った調査区⁽¹⁴⁾と範囲確認調査の98-4区・00-5区の間に位置し、縄文時代晚期の土坑が数基検出された。

各調査の概略は別表を参照されたい。



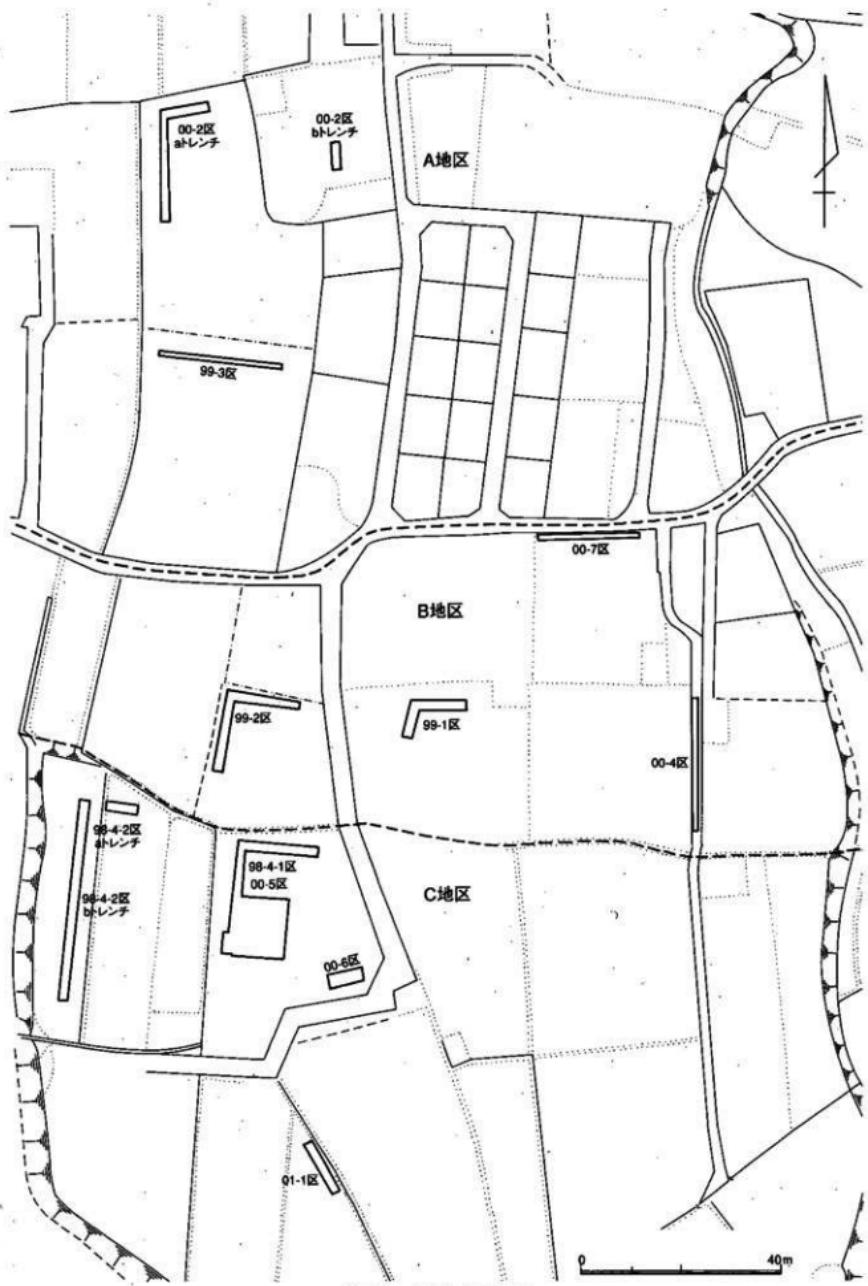
第3図 向出遺跡既往の調査区

向出遺跡既往の調査一覧

調査区	検出遺溝	出土遺物
88-1	ピット 落ち込み	サヌカイト、土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、須恵質土器、瓦器、陶器、磁器、瓦、蜻壺、土錘、石臼
88-3	土坑、溝、ピット	須恵器、土師質土器、瓦質土器、陶器(備前)、瓦
88-6	落ち込み	土師質土器、瓦
91-1		
92-1	土坑	サヌカイト、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦器
93-1		土師質土器、土錘
93-2		土師器、須恵器、土師質土器、陶器、磁器
93-3		サヌカイト、須恵器、黒色土器、土師質土器、青磁、鉄釘
94-1		
94-2		
94-3		
95-1	落ち込み	須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器
96-1		縄文土器、土師器、須恵器、瓦器
96-2		サヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、瓦器
97-1		サヌカイト、須恵器、土師質土器、瓦器、陶器、蜻壺
98-1		
98-2		
98-3		
98-4	本稿	
98-5	落ち込み	土師器、須恵器、黒色土器、製塙土器、土師質土器、瓦器、陶器、瓦、管状土錘
99-1	本稿	
99-2	本稿	
99-3	本稿	
00-1	土坑、溝、ピット、 落ち込み	サヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、白土器、土師質土器、陶器、磁器、瓦、製塙土器、管状土錘、骨、鉄釘
00-2	本稿	
00-3	溝、井戸	サヌカイト、須恵器、黒色土器、土師質土器、白土器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、瓦、蜻壺、管状土錘、鉄釘
00-4	本稿	
00-5	本稿	
00-6	本稿	
00-7	本稿	
01-1	本稿	
01-2		土師質土器、瓦器、磁器
01-3		土師質土器、瓦器、瓦
01-4		土師質土器、陶器、磁器、瓦
01-5		土師器、土師質土器、白土器、備前、陶器、磁器、瓦、焼土
02-1	溝	陶器(天目)、焼土
03-1		土師質土器、陶器、磁器、蜻壺
03-2		
03-3	土坑、溝、ピット	サヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、製塙土器、土師質土器、白土器、陶器、磁器、白磁、瓦、蜻壺、鉄釘
03-4		サヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、白土器、瓦器、瓦質土器、磁器、瓦、蜻壺、焼土
04-1		土師器、須恵器、土師質土器、瓦器、陶器、磁器、瓦

参考文献

- (1) 阪南町史編さん委員会 阪南町史 上巻
- (2) 阪南町教育委員会 阪南町埋蔵文化財報告 VI 阪南町埋蔵文化財分布調査概要 I 1988年
- (3) 阪南町教育委員会 阪南町埋蔵文化財報告 VII 阪南町埋蔵文化財分布調査概要 II 1989年
- (4) 阪南町教育委員会 阪南町埋蔵文化財報告 VIII 阪南町埋蔵文化財発掘調査概要 III 1989年
- (5) 阪南市教育委員会 阪南市埋蔵文化財報告 XVI 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 IV 1993年
- (6) 阪南市教育委員会 阪南市埋蔵文化財報告 XVII 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 IX 1994年
- (7) 阪南市教育委員会 阪南市埋蔵文化財報告 XXI 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XI 1996年
- (8) 阪南市教育委員会 阪南市埋蔵文化財報告 XXII 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XII 1997年
- (9) 阪南市教育委員会 阪南市埋蔵文化財報告 XXIII 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XIII 1998年
- (10) 阪南市教育委員会 阪南市埋蔵文化財報告 XXV 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XIV 1999年
- (11) 阪南市教育委員会 阪南市埋蔵文化財報告 XXVI 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XV 2000年
- (12) 阪南市教育委員会 阪南市埋蔵文化財報告 31 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XVIII 2003年
- (13) 阪南市教育委員会 阪南市埋蔵文化財報告 32 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XIX 2004年
- (14) 阪南市教育委員会 阪南市埋蔵文化財報告 35 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XX 2005年
- (15) (財)大阪府文化財調査研究センター 一般国道26号線第二阪和国道建設事業に伴う久保田遺跡発掘調査報告書－大阪府阪南市自然田－ 1999年
- (16) (財)大阪府文化財調査研究センター 向出遺跡一般国道26号(第二阪和国道)の建設に伴う発掘調査報告書 2000年
- (17) (財)大阪府文化財調査研究センター 亀川遺跡一般国道26号(第二阪和国道)の建設に伴う発掘調査報告書 2002年



第4図 トレンチ位置図

第3章 調査の成果

調査区は向出遺跡のほぼ中央部に位置する。平成9(1997)年に国道26号(第二阪和国道)の建設工事に伴い、(財)大阪府文化財調査研究センターが調査を実施し、縄文時代後期から晩期にかけての土坑が検出されたのと同じ段丘上にあたる。調査区付近の標高は23.0m前後である。

調査報告は便宜上、調査区を北からA・B・Cの3地区に分けて行なった。地形は北から南に向かって、高まっている。

A地区

00-2区 a・bトレンチ

調査は31.0m×2.0mのL字状のaトレンチと、その東側に5.0m×2.0mのbトレンチを設定して行った。

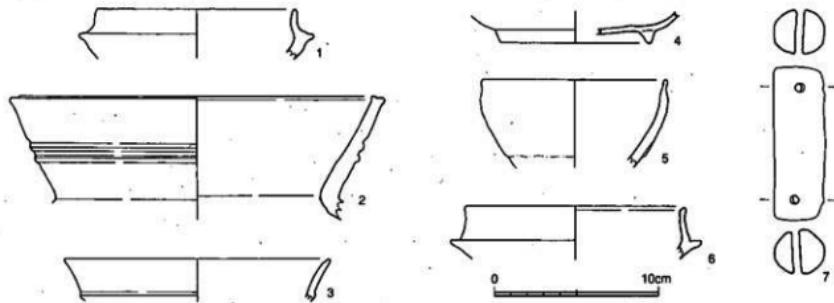
aトレンチ (第5~8図)

基本層序は第1層耕作土、第2層淡灰茶色砂質土、第3層淡茶色土、第4層暗茶黒色風化疊混土、第5層淡橙茶色土の地山である。

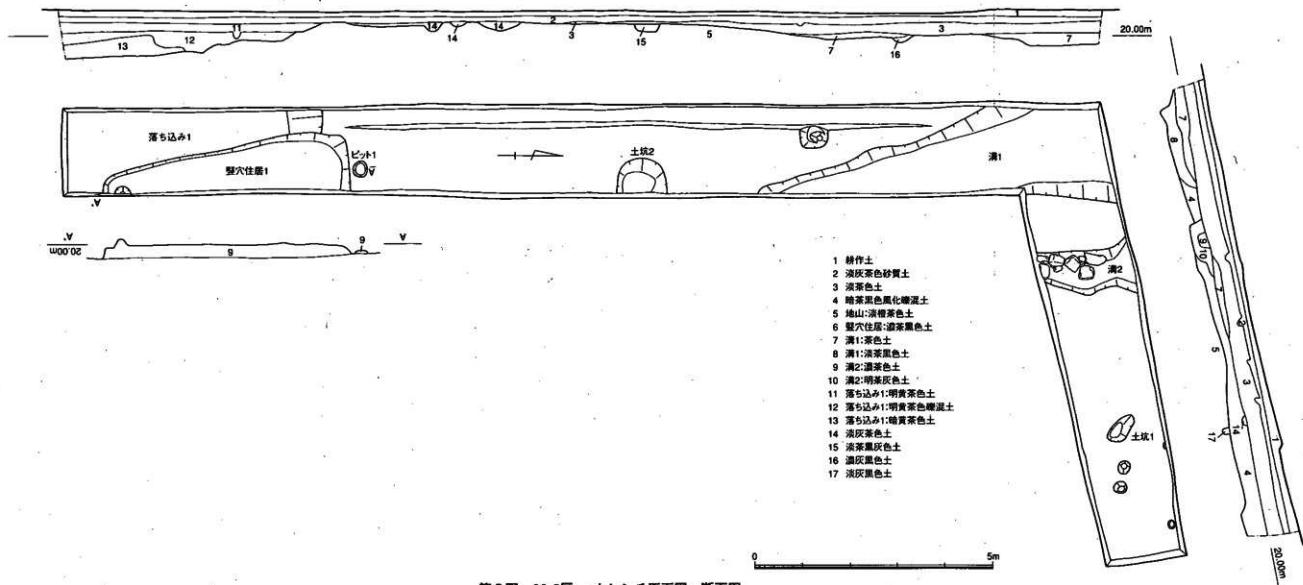
遺物は第2層から弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、陶器、磁器、瓦、第3層からサヌカイト、土師器、須恵器、黑色土器、白土器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、瓦、中世陶器、輸入陶磁器、鉄鎌、第4層から弥生土器、土師器、須恵器、黑色土器が出土した。第2層は近世期、第3・4層は中世期の包含層である。

1・2は須恵器で1は壺身、2は壺、第2層から出土した。3は須恵器高壺、4は土師器の皿、5は天目茶碗で、第3層から出土した。6は須恵器壺身、7は土師質の有孔土錐で、第4層から出土した。

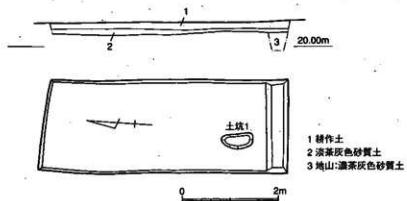
遺構は竪穴住居1、土坑を2、溝を2、ピット群、落ち込みを1検出した。



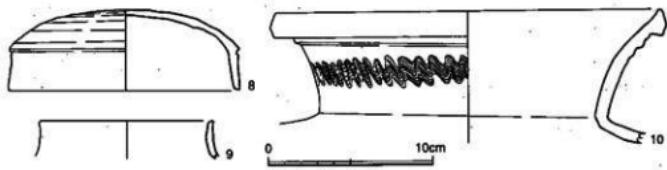
第6図 00-2区 aトレンチ 包含層 出土遺物



第5図 00-2区 aトレンチ平面図・断面図



第9図 00-2区 bトレンチ平面図・断面図



第7図 00-2区 aトレンチ 竪穴住居1 出土遺物

竪穴住居1（第5・7図）

一辺5.10mの方形で、深さ0.30mを測る。南部床面で直径0.33m、深さ0.17mの柱穴を検出した。埋土は濃茶黒色土で、炭化物と焼土が含まれていた。古墳時代中期の遺構である。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。8~10は須恵器で、8は壺蓋、9は壺身、10は壺の口縁部である。10の壺は竪穴住居の北部に据えたように置かれていた。

土坑1（第5図）

東西0.37m、南北0.68m、深さ0.14mを測る。埋土は第4層と同じ暗茶黒色風化礫混土で、遺物は出土しなかった。

土坑2（第5図）

南北1.05m、東西0.75m以上、深さ0.10mを測る。埋土は暗茶色風化礫混土で、遺物は土師器が出土したが、小片のため図示できなかった。

溝1（第5図）

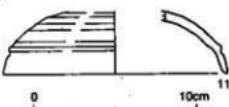
第4層上面から切り込んでいる。長さ7.40m以上、幅2.50m以上、深さ0.58mの南北方向の溝である。埋土は上層が茶色土で、下層は淡茶黒色土である。

遺物は上層からサヌカイト、弥生土器、土師器、須恵器、黑色土器、瓦器が出土したが、下層からは出土しなかった。

溝2（第5・8図）

長さ2.00m以上、幅1.26m、深さ0.32mの南北方向の溝である。埋土は上層が濃茶色土、下層が明茶灰色土で、直径0.30m前後の石が埋められていた。

遺物は土師器、須恵器が出土したが、中世期の遺構と思われる。11は須恵器の壺蓋で古墳時代中期のものである。



第8図 00-2区 aトレンチ 溝2 出土遺物

落ち込み（第5図）

トレンチの南部で一部のみ検出したため、遺構の性格は不明である。埋土は第1層明黄茶色土、第2層明黄茶色疊混土、第3層暗黄茶色土で、竪穴住居1に切られている。

遺物は土師器が出土した。古墳時代中期以前の遺構である。

ピット1（第5図）

竪穴住居1の北に位置する。直径0.30m、深さ0.05mで、埋土は竪穴住居1と同じ炭化物と焼土を含む濃茶黒色土である。遺物は出土しなかった。

bトレンチ（第9図）

基本層序は第1層耕作土、第2層淡茶灰色砂質土、第3層濃茶灰色砂質土の地山である。第2層より土師質土器が出土したが、図示できなかった。遺構は土坑を1検出した。

土坑1（第9図）

東西0.30m、南北0.65m、深さ0.08mを測り、埋土は淡灰茶色微砂である。遺物は出土しなかった。

まとめ

古墳時代中期の竪穴住居と中世期の溝を検出した。遺物は弥生土器が出土しているものの、縄文土器は出土しなかった。

溝1と溝2は後述する99-3区の溝2、溝3と埋土が同じであることから、同一の溝と考えられる。

99-3区（第10~16図）

調査区は00-2区の南に位置し、調査は現在グランドとして使用されている場所に25.0m×2.0mのトレンチを東西方向に設定して行った。

基本層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層灰色土、第4層淡茶色土、第5層濃茶色土、第6層黄茶色粘質土の地山である。第3層は近世期、第4・5層は中世期の包含層と思われる。

遺物は第3層から陶磁器をはじめ、須恵器、瓦器などが、第4層から土師器、瓦器、白磁などが、第5層から土師器、須恵器、黒色土器、瓦器などが出土した。

1は須恵器の無蓋高壺で、第3層から出土した。2は第4層から出土した白磁碗。3以下はいずれも第5層から出土した。3~18は須恵器で、3は有蓋高壺の蓋。4~8は壺蓋。9~11は壺身。12~14は無蓋高壺。15~17は壺。18は甕。19~22は土師器で、19は鍋。20は瓶などの把手。21は壺。22は壺。23は土師質小皿。24・25は瓦器碗である。

遺構確認は第4~6層のそれぞれ上面で行った。第4層上面で溝を1、第5層上面で溝を1、ピットを4、地山面では土坑を3、溝を1、ピットを17検出した。遺構の概要については、以下の通りである。

土坑1（第10図）

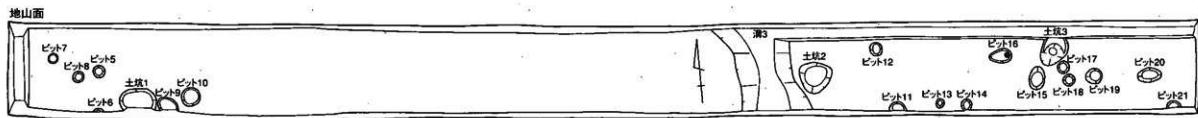
トレンチ西部の地山面で検出した。長径0.80m、短径0.40m以上、深さ0.14mを測り、埋土は淡灰黄色粘質土である。遺物は出土しなかったが、埋土の状況から中世期の遺構と思われる。

土坑2（第10図）

トレンチ東部の地山面で検出した。直径0.70m、検出面からの深さ0.10mを測り、埋土は淡茶色粘質土である。遺物は土師器が出土したが、後世の流れ込みと思われる。

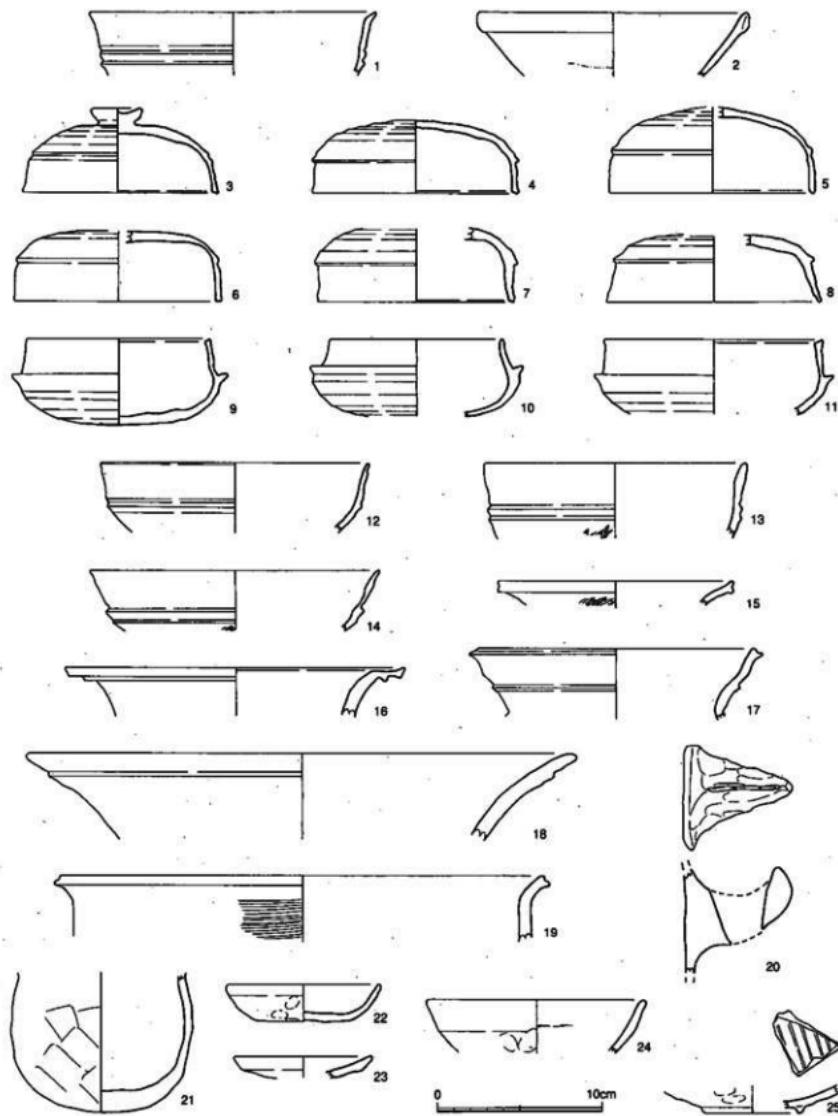
土坑3（第10図）

トレンチ西部の地山面で検出した。長径0.60m、短径0.50m以上、深さ0.09mを測り、埋土は濃茶色土である。遺物は土師器が出土したが、後世の流れ込みと思われる。



- 1 緑土
- 2 稲作土
- 3 灰色土
- 4 淡茶色土
- 5 深茶色土
- 6 地山: 黄茶色粘質土
- 7 渠1: 淡茶色砂質土
- 8 渠2: 茶色土
- 9 渠2: 黄茶色粘質土
- 10 反褐色土

第10図 99-3区 トレンチ平面図・断面図



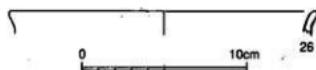
第11図 99-3区 包含層 出土遺物

溝1（第10図）

トレンチ西部の第4層上面で検出した。南北方向に流れる。幅0.20m、深さ0.18mを測り、埋土は淡茶色砂質土である。遺物は出土していないが、近世期の遺構と思われる。

溝2（第10・12図）

トレンチほぼ中央部の第5層上面で検出した。南北方向に流れ、幅7.30m、深さ0.50mを測る。埋土は第4層淡茶色砂質土の他、茶色土、黄茶色粘質土である。遺物は瓦器、白磁などをはじめ、土師器、須恵器、黒色土器などが出土した。26は白磁碗の口縁部である。中世期の遺構と思われる。



第12図 99-3区 溝2 出土遺物

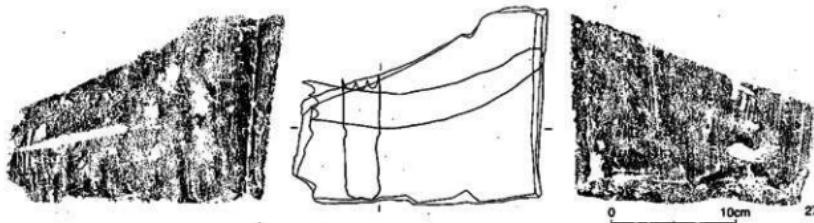
溝3（第10図）

トレンチ東部の地山面で検出した。溝2と平行し、南北方向に流れる。幅1.20m、深さ0.30mを測り、埋土は第5層濃茶色土である。遺物は土師器、須恵器、黒色土器、瓦器などが出でていている。中世期の遺構で、溝2よりも若干先行する。なお、遺物はいずれも小片で図化できなかつた。

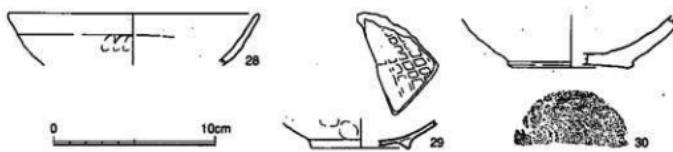
ピット1～4（第10・13～15図）

いずれも、トレンチ東部の第5層上面で検出した。ピット1・2は淡茶白色土、ピット3・4は暗灰茶色粘質土である。

遺物はピット1から、根石のかわりをするような状態で27の平瓦を検出した。また、28・29の瓦器碗、30の須恵質捏鉢と図示できなかつたが、黒色土器碗が出土した。



第13図 99-3区 ピット1 出土遺物



第14図 99-3区 ピット1 出土遺物

ピット2からは31の瓦器椀、32の須恵器坏身と図示できなかったが、土師器、平瓦が検出された。ピット3からもピット1同様、根石のかわりをするような状態で平瓦が出土した。また、須恵器、黒色土器、瓦器が出土した。

ピット4から遺物は出土しなかったが、いずれも中世期の遺構と思われる。

ピット5~10（第10図）

トレンチ西部の地山面で検出した。埋土はピット5・6は暗黄色砂質土、ピット7~10は淡灰黄色粘質土である。遺物はピット5とピット7から土師質土器が出土した。検出状況や埋土からいずれも中世期の遺構と思われる。

ピット11~21（第10・16図）

トレンチの東部、前述の溝3の東側、地山面で検出した。埋土は第5層濃茶色土などである。遺物はピット11・12・14・16から、土師器、瓦器などが出土した。33の土師器の壺は、ピット11から出土した。

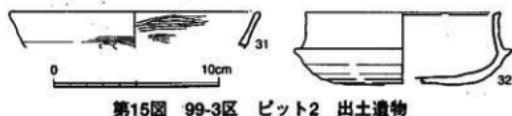
まとめ

以上のように99-3区では、古墳時代以降の遺物と中世期の遺構を検出したが、縄文時代に遡る遺物、遺構は確認されなかった。

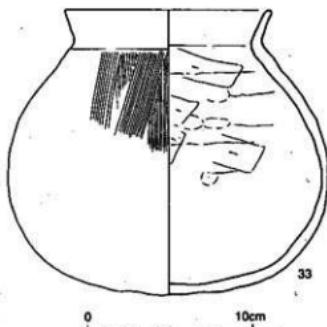
なお、遺構で明確に古墳時代のものと言えるものはなかったが、図化し、写真図版に見られるように、5世紀の須恵器の高坏や坏がほぼ完形で出土しており、同時期の遺構の存在が想定される。この翌年度に調査を実施した本調査区の北側に隣接する00-2区では、古墳時代中期の竪穴住居が確認されており、今回のトレンチ内では検出できなかったが、このトレンチ周辺でも十分にその存在は考えられる。今回の範囲確認調査で便宜上、A地区と呼んでいる付近には、同時期の集落の存在が想定される。

また、後述する99-2区同様、中世期の瓦が出土しており、付近に寺院跡の存在も想定される。

このように、平成9(1997)年に(財)大阪府文化財調査研究センター及び本市教育委員会が今回範囲確認調査を行った向出遺跡の台地上には、縄文時代から中世期までの痕跡が連続と辿れることがより明かになった。



第15図 99-3区 ピット2 出土遺物



第16図 99-3区 ピット11 出土遺物

B地区

99-2区（第17～23図）

調査は東西方向に15.0m×2.0mのトレンチを、南北方向に同じ15.0m×2.0mのトレンチをL字状に設定して行った。前者のトレンチをaトレンチ、後者をbトレンチとした。

基本層序は第1層耕作土、第2層灰色礫混土、第3層茶色土、第4層淡茶色礫混土、第5層黄茶色土、第6層黄茶色礫の地山である。

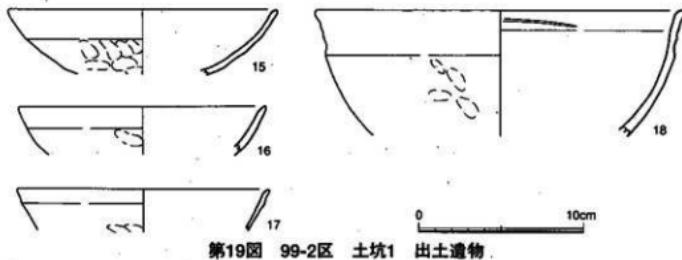
遺物は第2層から土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、平瓦などが、第3層から土師質土器、瓦器、瓦質土器などが、第4層から土師質土器が、第5層から瓦器、土師質土器が出土した。若干の時期差はあると思われるが、第2～5層はいずれも中世期の包含層と考えられる。

1～9は第3層から出土した。1は土師質の管状土錘。2は土師質の小皿。3～6は瓦器碗。7～9は瓦器皿。10～14は第4層から出土した。10は瓦器碗。11は土師質小皿。12は土師質羽釜で、いわゆる紀伊型とよばれるもの。13・14は石皿で、共に和泉砂岩製。14の石皿は焼成を受けている。

第1層耕作土の直下と地山面で遺構を確認した。第1層直下では、土坑を2、ピットを9検出し、地山面で土坑を4、ピットを6、落ち込みを1検出した。このうち、主要なものについて、以下の通り概要を記述する。

土坑1（第17・19図）

bトレンチの北側、第1層直下で検出した。南北2.00m、東西1.80m以上、深さ0.60mを測り、埋土は暗茶灰色小礫混土である。遺物は15～17の瓦器碗、18の瓦器の鉢などが出土した。中世期の遺構と思われる。



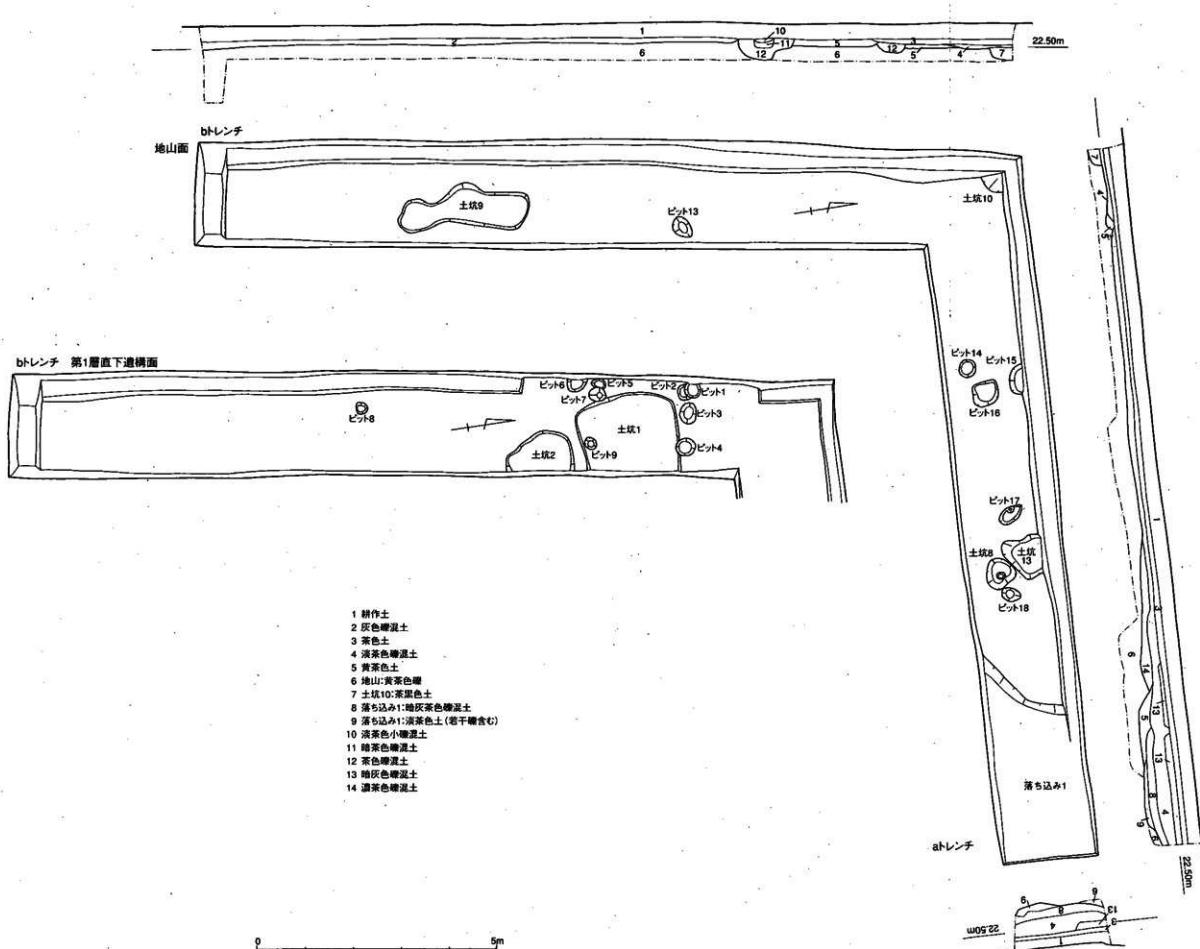
第19図 99-2区 土坑1 出土遺物

ピット1～9（第17・20図）

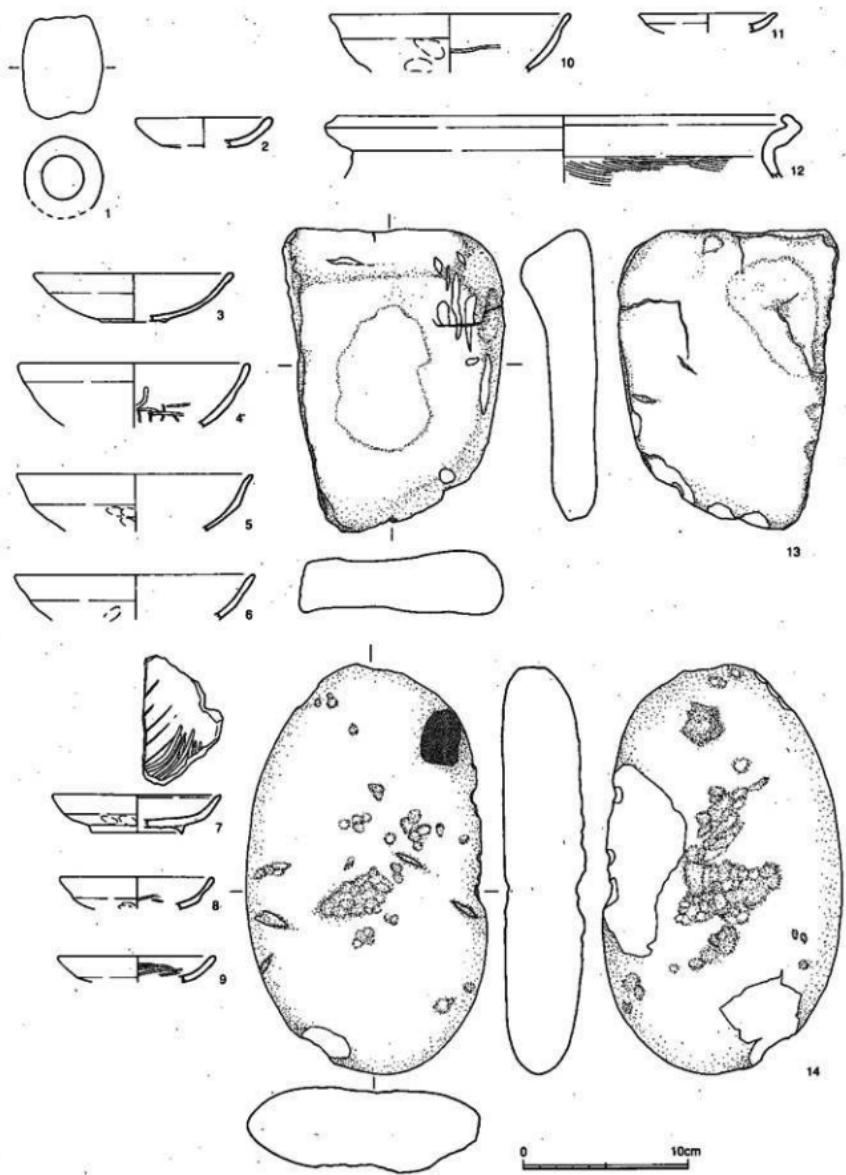
bトレンチ北側の第1層直下で検出した。このうち、ピット4は直径0.40m、深さ0.15mを測る。遺物は19の瓦器碗が出土した。ピット6・7からも瓦器などが出土した。いずれも中世期の遺構と考えられる。



第20図 99-2区
ピット4 出土遺物



第17図 99-2区 トレンチ平面図・断面図



第18図 99-2区 包含層 出土遺物

土坑8（第17図）

aトレンチ中央部の地山面で検出した。南北0.60m、東西0.68m、深さ0.30mを測り、埋土は暗茶色礫混土と暗茶色砂質土である。遺物は瓦器が出土した。

土坑9（第17図）

bトレンチ中央部の地山面で検出した。南北2.80m、東西0.90m、深さ0.11mを測り、埋土は暗茶黒色礫混土である。遺物は土師質土器が出土した。

土坑10（第17図）

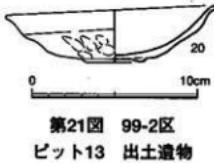
aトレンチ西端部の地山面で検出した。南北0.40m以上、東西0.40m、深さ0.30mを測り、埋土は茶黒色土である。遺物は出土していないが、付近の調査区の状況から縄文時代の埋土の可能性がある。

土坑13（第17図）

aトレンチ中央部の地山面で検出した。南北1.20m以上、東西0.90m、深さ0.17mを測る。埋土は濃茶色礫混土で、遺物は出土しなかった。

ピット13（第17・21図）

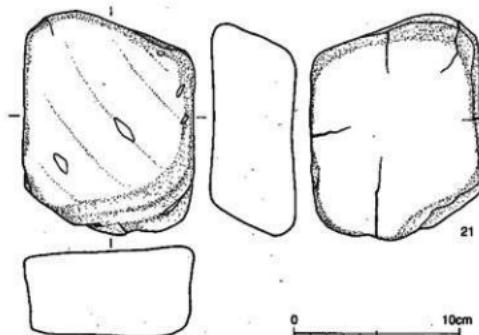
bトレンチ中央部の地山面で検出した。直径0.40m、深さ0.15mを測る。埋土は暗茶黒色礫混土である。遺物は20の瓦器碗、土師質土器などが出土した。



第21図 99-2区
ピット13 出土遺物

ピット14~17（第17・22図）

aトレンチ中央部の、地山面で検出した。直径は概ね0.40m~0.70mを測り、埋土はいずれも暗茶色礫混土である。遺物はピット15から21の石皿が出土した。



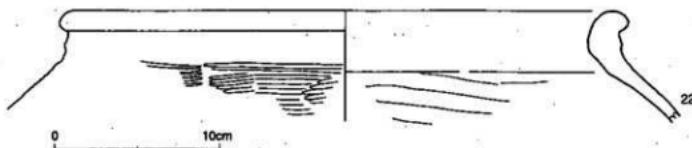
第22図 99-2区 ピット15 出土遺物

ピット18（第17図）

aトレンチ中央部の地山面で検出した。直径0.40m、深さ0.17mを測る。埋土は暗灰茶色礫混土で、遺物は瓦器などが出土した。

落ち込み1（第17・23図）

aトレンチ東部の地山面で西から東に向かう落ち込みを検出した。埋土は第5層黄茶色土、暗灰茶色礫混土、淡茶色土などである。遺物はサヌカイト、土師器、瓦器、陶器、瓦などが出土した。22は瓦質土器の壺である。小さな谷状を呈していた地形が中世期に埋没したものと思われる。



第23図 99-2区 落ち込み1 出土遺物

まとめ

99-2区の調査で、縄文時代の可能性がある遺構は、土坑10のみであった。調査区の南側は耕作地形成時に削平されていると思われ、包含層自体の存在も希薄であった。北側については、包含層の存在は見られたが、中世期の包含層であった。aトレンチの東側で検出した落ち込みが中世期の包含層で埋没していることから、この調査区が位置する台地上に中世期以前には小さな谷状の地形がいくつかはしっており、これらを耕作地とするため、中世期に整地されたものと思われる。

なお、中世期の瓦が出土していることから、付近に寺院などの建物の存在が想定される。

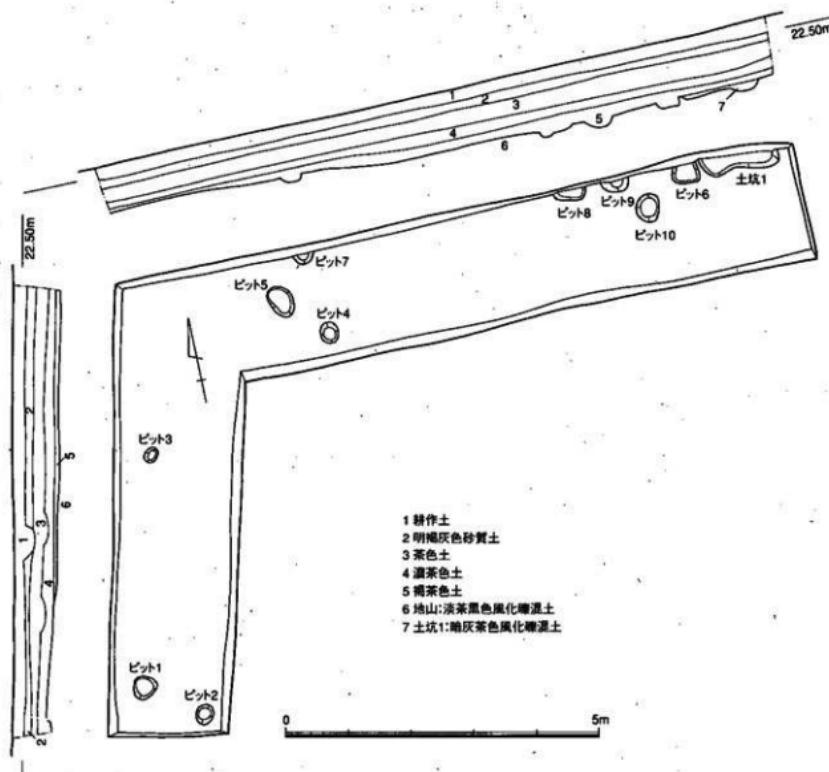
99-1区（第24・25図）

調査区は99-2区の東側に近接する。調査は11.2m×2.0mのトレンチと7.2m×2.0mのトレンチをL字状に設定して行った。

基本層序は第1層耕作土、第2層明褐灰色砂質土、第3層茶色土、第4層濃茶色土、第5層褐茶色土、第6層淡茶黒色風化礫混土の地山である。

遺物は第2・3層から土師器、須恵器、黑色土器、瓦器、白土器、土師質土器、瓦質土器、陶器、瓦、第4層からサヌカイト、土師器、須恵器、黑色土器、須恵質土器、瓦質土器、第5層から土師器、須恵器、黑色土器が出土した。第2層は近世期、第3～5層は中世期の包含層である。1は瓦質鍋である。第2層から出土した。

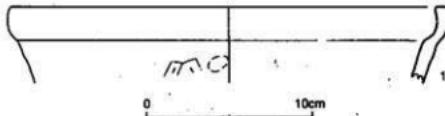
遺構は地山面で土坑1とピットを10検出した。



第24図 99-1区 トレンチ平面図 断面図

土坑1（第24図）

南北0.30m、東西1.25m以上の不定形土坑で、埋土は暗灰茶色風化疊混土である。遺物は出土しなかった。倒木痕と思われる。



第25図 99-1区 包含層 出土遺物

ピット1～10（第24図）

直径0.30m前後のピット群である。埋土はピット1～4が第4層濃茶色土、ピット5～9が第5層褐茶色土、ピット10は暗灰茶色風化疊混土である。遺物はピット2から土師器、須恵器、ピット10から丸瓦が出土した。

まとめ

この調査区からは縄文時代と思われる遺構、遺物は全く出土しなかった。本調査区の東側に位置する00-7区の落ち込みの続きで、トレンチ全体が谷状地形で中世期に埋められた可能性も考えられる。

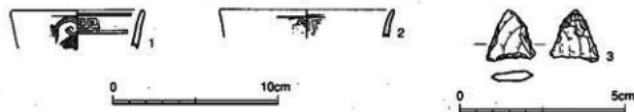
00-4区（第26・27図）

調査は27.0m×1.0mのトレンチを設定して行った。

基本層序は第1層耕作土、第2層暗茶灰色風化礫混土、第3層明茶色土、第4層暗茶色風化礫混土、第5層茶色風化礫混土の地山である。北東に向かって次第に落ち込み、トレンチ南側では第2・3層は存在しない。遺物は第2層でサヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、第3層でサヌカイト、弥生土器、土師器、白土器、第4層からサヌカイト、縄文土器が出土した。第2層は近世期、第3層は中世期、第4層は縄文時代の包含層である。

1・2は磁器碗で第1層から出土した。3はサヌカイトの石鏃で第3層から出土した。

遺構は第4層上面で土坑を2とピット1、地山面で土坑を1検出した。



第27図 00-4区 包含層 出土遺物

土坑1（第26図）

第4層上面で検出した。東西0.46m以上、南北1.20m、深さ0.47mの土坑で、埋土は上層が灰茶色土、下層が淡茶黒色礫混土である。遺物は上層からサヌカイト、縄文土器が、下層からは縄文土器が出土した。

土坑2（第26図）

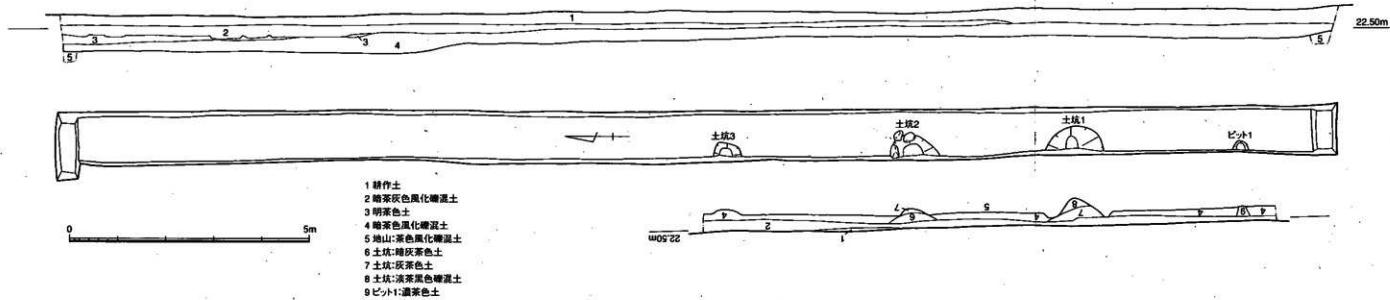
第4層上面で検出した。東西0.43m以上、南北1.10m、深さ0.32mで、埋土は上層が暗灰茶色土、下層が灰茶色土である。遺物は出土しなかった。

土坑3（第26図）

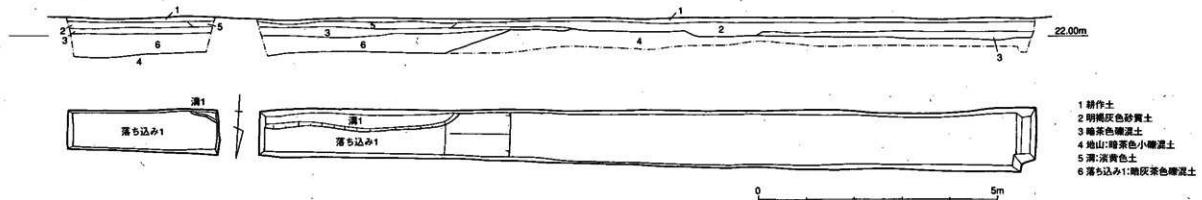
地山面で検出した。東西0.30m以上、南北0.56m、深さ0.10mで、埋土は第4層暗茶色風化礫混土である。遺物は出土しなかった。

ピット1（第26図）

第4層上面で検出した。直径0.33m、深さ0.23mで、埋土は濃茶色土である。遺物は出土しなかった。



第26図 00-4区 トレンチ平面図・断面図



第26図 00-7区 トレンチ平面図・断面図

まとめ

第4層は遺物の出土量は少ないので、縄文時代の包含層と考えられる。土坑1は第4層上面から切り込んでいるが、サヌカイトと縄文土器が出土していることから、縄文時代の遺構と考えられる。

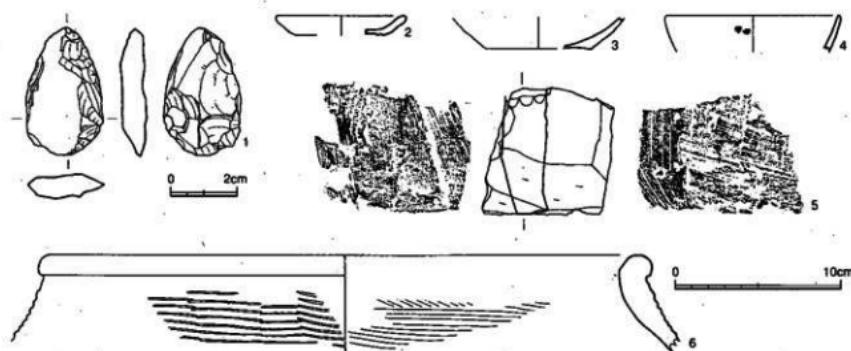
本調査区は平成9(1997)年度の(財)大阪府文化財調査研究センターが行った調査区の西側にあたり、標高差がないことなどを考え合わせると、縄文時代の土坑墓群の範囲が拡がる可能性は大きいにある。

00-7区（第28・29図）

00-4区の北部に位置する。調査は20.2m×1.0mのトレンチを設定して行った。

基本層序は第1層耕作土、第2層明褐灰色砂質土、第3層暗茶色礫混土、第4層暗茶色小礫混土の地山である。遺物は第1層からサヌカイト、土師器、須恵器、黒色土器、陶器、磁器、瓦など、第2層からサヌカイト、土師器、須恵器、黒色土器、白土器、土師質土器、陶器、磁器、瓦など、第3層から縄文土器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、瓦などが出土した。1はサヌカイトの2次加工剥片と思われる。2は土師質小皿、3は陶器の鍋、4は波佐見の椀、5は中世瓦である。1は第1層、2・3は第2層、4・5は第3層から出土した。

遺構は第2層上面で溝1、地山面で落ち込み1を検出した。



第29図 00-7区 包含層・落ち込み1 出土遺物

溝1（第28図）

第2層上面で検出した。幅0.35m以上、長さ5.60m以上、深さ0.13mで、埋土は淡黄色土である。遺物は土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、瓦が出土した。

落ち込み1（第28・29図）

トレンチのほぼ中央部から西側に落ち込んでいる。埋土は暗灰茶色礫混土で、遺物は土師器、瓦器、瓦質土器、瓦、莎入焼土塊が出土した。6は瓦質の壺。中世期の遺構である。

まとめ

縄文時代の遺構は検出されなかったが、包含層から石器や縄文土器が僅かながら出土した。

中世瓦がかなり出土していることから、付近に寺院の存在が考えられる。

C地区

C地区はB地区の南に位置し、比高差は約2.0mである。00-6区の北東へ約10mの03-3区の調査区からは縄文時代の土坑が多数検出されている。

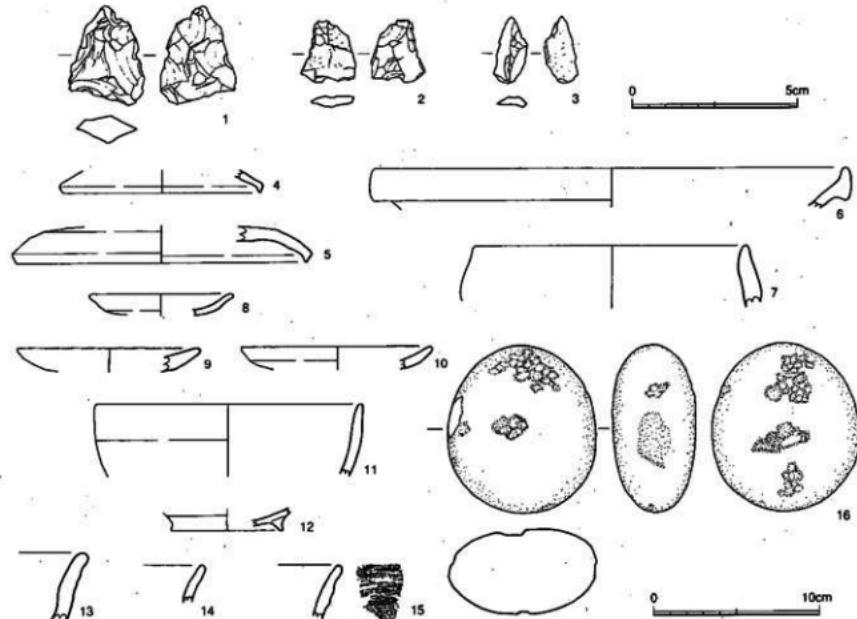
98-4-1区・00-5区（第30~41図）

調査区は向出遺跡の南部に位置し、平成9(1997)年度の(財)大阪府文化財調査研究センターの調査により、縄文時代後期から晩期の土坑墓群が出土した地点の約250m北西に位置する。発掘調査は2年度に渡り、5回に分けて行ったが、近接しているので、ここにまとめて報告する。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡茶灰色土、第4層明灰茶色土、第5層淡褐灰色砂質土、第6層淡茶灰色礫混土、第7層茶黒色風化礫混土、第8層濃茶色風化礫混土、第9層淡褐茶黒色砂質土、第10層淡黄褐色粘質土の地山であるが、北部の地山は淡茶黒色風化礫混土である。

遺物は各層からサヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、黑色土器が出土した。上記に加えて、第2層からは瓦器、磁器、瓦、第4・5層から瓦器が出土した。

1~3はサヌカイトの石鎌の未製品、4・5は須恵器の坏蓋、6は須恵質の捏鉢、7~9は土師質土器で、7は鉢と思われる。8~10は小皿、11・12は黑色土器碗、13~15は縄文土器で晩期のもの、16は和泉砂岩の敲石である。1~8は第3層、9~11は第4層、12~16は第7層から出土した。第3層



第32図 98-4-1区・00-5区 包含層 出土遺物

は近世期、第4・5層は中世期、第6層は遺物が出土していないため不明だが中世期以降、第7・8層は平安時代の包含層で、縄文時代の包含層は存在しなかった。

近世期の遺構は検出されず、第3・4層掘削後中世期と平安時代の遺構が検出された。下層面では、平安時代と縄文時代の遺構が混在していた。

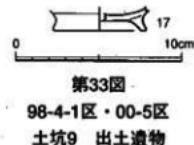
上層遺構

土坑2（第30図）

トレンチの西端で検出した、東西1.0m以上、南北0.60m、深さ0.25mの不定形土坑である。埋土は黒色土で、遺物は縄文土器、弥生土器、土師器が出土した。

土坑9（第30・33図）

トレンチの北東端で検出した。東西1.30m以上、南北1.50m以上、深さ0.40mで、埋土は上層が黒色風化礫混土、下層が黒色土である。遺物はサヌカイト、縄文土器、土師器、黒色土器が出土した。17は土師器碗である。



第33図
98-4-1区・00-5区
土坑9 出土遺物

土坑105（第30図）

東西0.57m、南北0.45m、深さ0.19mで、埋土は濃灰茶色土である。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、瓦器が出土した。中世期の遺構である。

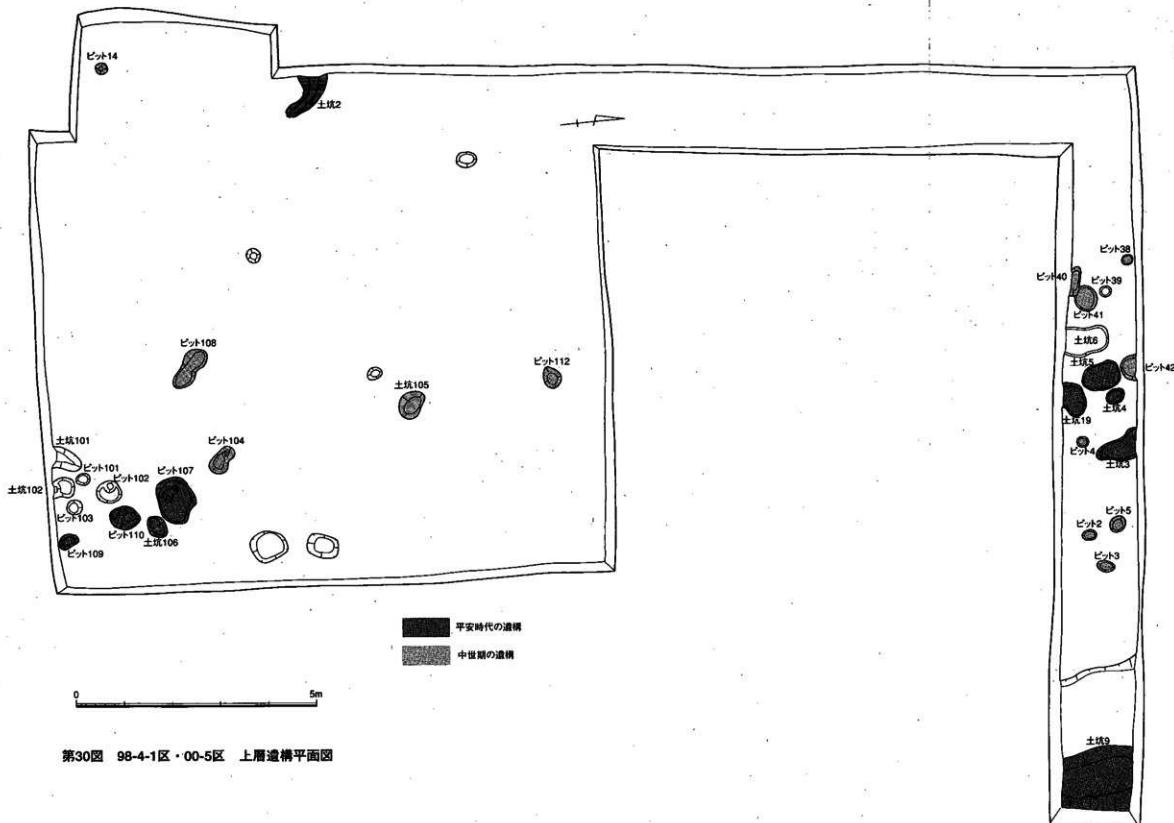
土坑106（第30図）

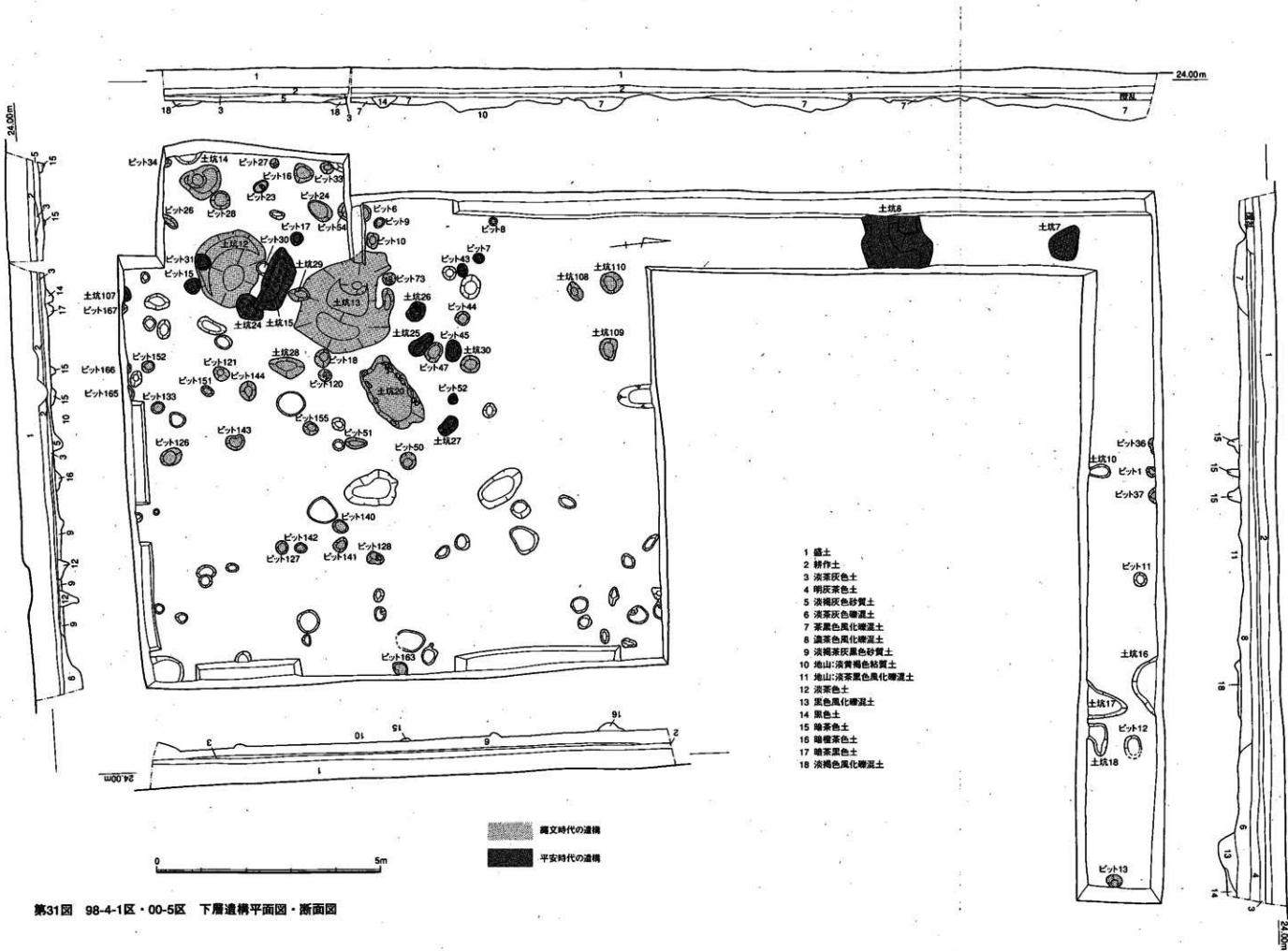
トレンチの南東端で検出した。東西0.53m、南北0.35m、深さ0.09mで、埋土は第7層茶黒色風化礫混土である。遺物は縄文土器が出土したが、埋土は平安時代の包含層である。

ピット14（第30図）

トレンチの南西端で検出した。直径0.25m、深さ0.20mで、埋土は茶黒色土である。遺物はサヌカイト、縄文土器、土師器、瓦器が出土した。中世期の遺構である。

上記以外に埋土から時代がわかる遺構として、ピット2~5・38・40~42の埋土は第4層明灰茶色土。ピット104・108・112の埋土は濃灰茶色土で、中世期の遺構。土坑3~5・19、ピット107・109・110の埋土は第7層茶黒色風化礫混土で、平安時代の遺構である。





第31図 98-4-1区・00-5区 下層造構平面図・断面図

下層遺構

土坑15（第31・34図）

東西1.50m、南北0.62m、深さ0.16mの不定形土坑で、埋土は上層が黄褐色風化疊混土、下層が黄褐色土である。遺物は縄文土器、土師器が出土した。

土坑24（第31・34図）

東西0.72m、南北0.50m以上、深さ0.18mで、土坑15に切られ、土坑12を切っている。埋土は淡褐色土で、遺物は土師器、須恵器が出土した。

土坑25（第31図）

東西0.59m、南北0.30m、深さ0.19mで、ピット47を切っている。埋土は黒色土で、遺物は縄文土器、黒色土器が出土した。

土坑26（第31図）

東西0.46m、南北0.33m、深さ0.24mで、埋土は黒色土である。遺物はサヌカイトが出土しているが、埋土から平安時代の遺構である。

土坑27（第31図）

東西0.50m、南北0.30m、深さ0.06mで、埋土は黒色土である。遺物は縄文土器、黒色土器が出土した。

土坑107（第31図）

トレンチの南端で検出した。東西0.40m、南北0.15m以上、深さ0.18mで、ピット167を切っている。埋土は黒色土で、遺物は黒色土器が出土した。

ピット7（第31図）

直径0.24m、深さ0.05mで、埋土は濃茶色土（淡褐色土混）である。遺物は黒色土器が出土した。

ピット15（第31図）

直径0.34m、深さ0.15mで、埋土は土坑2と同じ黒色土である。遺物は土師器が出土した。

ピット31

(第31・34図)

直径0.33m、深さ0.17mで、土坑12を切っている。埋土は土坑2と同じ黒色土で、遺物は土師器が出土した。

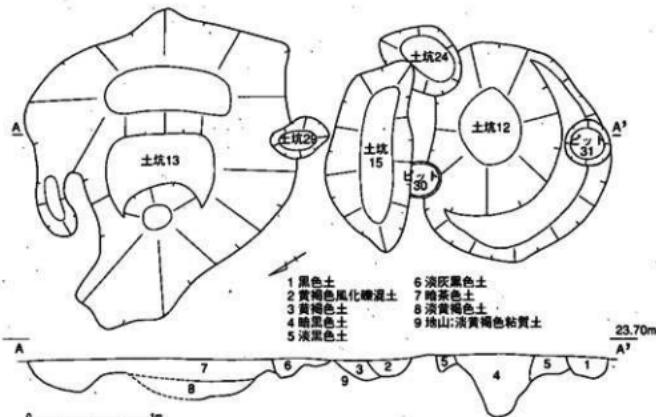
遺物は出土していないが、土坑7・8、ピット43

の埋土は平安時代の遺物が出土した

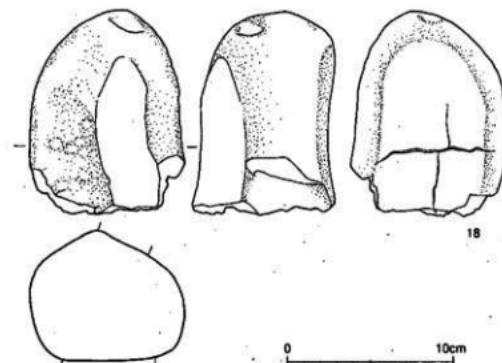
第7層茶黒色風化礫混土である。

ピット17・45・52も平安時代の遺物が出土した遺構と同じ黒色土の埋土である。

遺物が出土した縄文時代の遺構は全て地山面で検出した。土坑12・13・14・20・28・29・30・108・109・110、ピット6・9・10・13・18・23・54・120・121・126・128・142・144・155である。以下に報告する



第34図 98-4-1区・00-5区 土坑12-13-15-24-29 ピット30-31 平面図・断面図

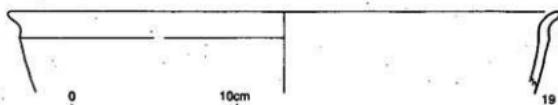


第35図 98-4-1区・00-5区 土坑12 出土遺物

土坑12（第31・34・35図）

東西1.70m、南北1.45m、深さ0.50mの大型土坑で、土坑24、ピット30・31に切ら

れている。上層が暗黒色土、下層が淡黒色土である。遺物は石器、縄文土器が出土した。18は和泉砂岩の敲石である。



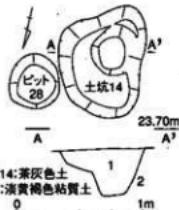
第36図 98-4-1区・00-5区 土坑13 出土遺物

土坑13（第31・34・36図）

土坑12の北側に位置し、東西2.50m、南北2.20m、深さ0.32mの大型土坑である。ピット25に切られている。埋

土は上層が暗茶色土、下層が淡黄褐色土である。

第37図 98-4-1区・00-5区 土坑14 平面図・断面図



遺物はサヌカイト、縄文土器が出土した。19は縄文土器の浅鉢である。

土坑14（第31・37・38図）

東西0.61m、南北0.80m、深さ0.35mで、埋土は茶灰色土である。遺物はサヌカイト、縄文土器が出土した。20・21は縄文土器の浅鉢、22はサヌカイトのスクレーパーである。

土坑20（第31・39・40図）

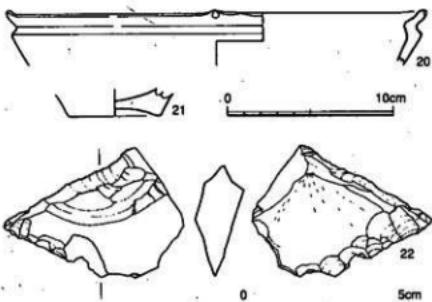
東西1.65m、南北0.88m、深さ0.16mの梢円形土坑で、底部は皿状を呈し、周縁部には配石がされていた。埋土は暗茶色土である。形状から墓坑の可能性が考えられる。遺物はサヌカイト、縄文土器、和泉砂岩の石器が出土した。23～25は縄文土器の浅鉢で、晩期のものである。26は直径13.0cm、厚さ5.20cmの和泉砂岩の敲石である。

土坑28（第31図）

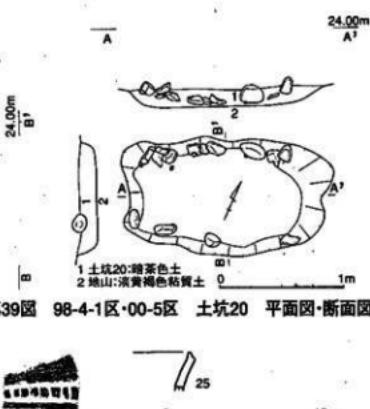
東西0.50、南北0.79m、深さ0.18mで、埋土は淡褐色茶色風化礫混土である。サヌカイト、縄文土器が出土した。

土坑29（第31・34図）

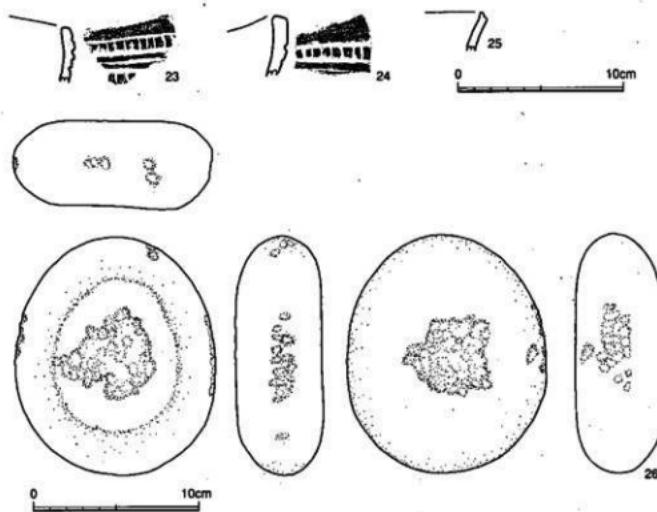
東西0.31m、南北0.64m、深さ0.15mで、埋土は淡灰黑色土である。遺物は縄文土器が出土した。



第38図 98-4-1区・00-5区 土坑14 出土遺物



第39図 98-4-1区・00-5区 土坑20 平面図・断面図



第40図 98-4-1区・00-5区 土坑20 出土遺物

土坑30（第31図）

東西0.40m、南北0.43m、深さ0.30m。埋土は暗茶赤色土で、炭化物が混じっていた。遺物はサヌカイト、縄文土器が出土した。

土坑108（第31図）

東西0.42m、南北0.28m、深さ0.13mで、埋土は淡黒灰色土である。遺物はサヌカイト、縄文土器が出土した。

土坑109（第31図）

東西0.50m、南北0.36m、深さ0.16mで、埋土は淡黒灰色土である。遺物は縄文土器が出土した。

土坑110（第31図）

直径0.45m、深さ0.16m。埋土は暗灰黑色土で、炭化物が混じっていた。遺物はサヌカイト、縄文土器が出土した。

ピット6（第31図）

直径0.38m、深さ0.12m。埋土は暗黒色土で、炭化物が混じっていた。遺物は縄文土器が出土した。

ピット9（第31図）

直径0.28m、深さ0.19mで、埋土は暗茶色土である。遺物は縄文土器が出土した。

ピット10（第31図）

直径0.32m、深さ0.26mで、埋土は暗茶色土である。遺物は縄文土器が出土した。

ピット13（第31図）

直径0.33m、深さ0.18mで、埋土は暗茶色風化礫混土である。遺物はサヌカイトが出土した。

ピット18（第31図）

直径0.36m、深さ0.18mで、埋土は暗黒色土である。遺物はサヌカイトが出土した。

ピット23（第31図）

直径0.29m、深さ0.19mで、埋土は暗茶色土である。遺物は縄文土器が出土した。

ピット54（第31・41図）

直径0.25m、深さ0.08mで、埋土は暗黒色土である。遺物はサヌカイト、縄文土器が出土した。27・28は縄文土器の深鉢で晩期のものである。



ピット120（第31図）

直径0.29m、深さ0.07mで、埋土は茶灰色土である。遺物は縄文土器が出土した。

ピット121（第31図）

直径0.31m、深さ0.07mで、埋土は茶灰色土である。遺物はサヌカイトが出土した。

ピット126（第31図）

直径0.46m、深さ0.10mで、埋土は暗茶黒色土である。遺物は縄文土器が出土した。

ピット128（第31図）

直径0.31m、深さ0.20m。埋土は暗茶黒色土で、炭化物が含まれていた。遺物はサヌカイト、縄文土器が出土した。

ピット142（第31図）

直径0.25m、深さ0.07mで、埋土は暗茶黒色土である。遺物は縄文土器が出土した。

ピット144（第31図）

直径0.39m、深さ0.17mで、埋土は暗茶黒色土である。遺物は縄文土器が出土した。

ピット155（第31図）

直径0.32m、深さ0.13mで、埋土は暗茶黒色土である。遺物はサヌカイト、縄文土器が出土した。

次の遺構から遺物は出土していないが、埋土から縄文時代の遺構と考えられる。ピット1・8・26・27・34・36・37・44・47・50・73・163・165・166は暗茶色土、ピット16・24・28・33・51・140・141・143・151は茶灰色土、ピット127・133・152・167は暗茶黒色土である。

まとめ

縄文時代の包含層は確認できなかったが、多数の遺構を検出した。土坑20から人骨は出土していないが墓坑の可能性が非常に高い。遺構は土囊などで保護し、慎重に埋め戻した。

98-4-2区 a・bトレンチ

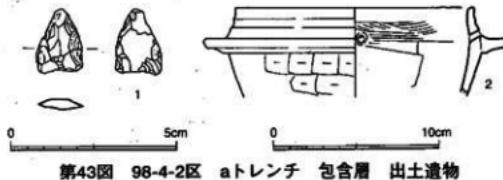
C地区はB地区の南部にあたり、B地区より約2.0m程高い。調査は6.5m×2.0mのaトレンチ、それと直角方向に40.0m×2.0mのbトレンチを設定して行った。

aトレンチ（第42～44図）

基本層序は第1層耕作土、第2層淡乳灰色砂質土、第3層淡茶灰色土、第4層淡褐灰色砂質土、第5層茶色土、第6層濃茶色土、第7層淡茶黒色風化礫混土の地山であるが、第2層は存在しなかった。

出土遺物は各層からサヌカイト、縄文土器、須恵器、瓦器が出土した。それ以外に第3層から陶器、磁器、第4層から白土器、土師質婧壺、磁器、第5層からチャート、瓦質土器、磁器、第6層から黒色土器が出土した。第3層は近世紀、第4～6層は中世期の包含層である。

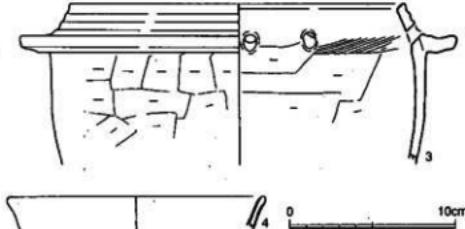
1はサヌカイトの石鎌、第3層から出土した。2は15世紀の瓦質羽釜で、第5層から出土した。遺構は第5層上面で土坑を1検出したのみである。



第43図 98-4-2区 aトレンチ 包含層 出土遺物

土坑1（第42・44図）

直径1.80m、深さ0.15mの円形土坑である。埋土は第5層茶色土である。遺物はサヌカイト、須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、青磁が出土した。3は15世紀の瓦質羽釜、4は15世紀初頭の青磁碗である。中世期の遺構である。



第44図 98-4-2区 aトレンチ 土坑1 出土遺物

bトレンチ（第42・45～47図）

基本層序は第1層耕作土、第2層淡乳灰色砂質土、第3層淡茶灰色土、第4層淡褐灰色砂質土、第5層茶色土、第6層濃茶色土、第7層淡茶黒色風化礫混土の地山である。

遺物は第2層からサヌカイト、縄文土器、須恵器、土師質土器、黒色土器、瓦器、瓦質土器、土師質蜻蛉、青磁、陶器、磁器、瓦が出土した。

1・2は瓦器椀、3は磁器の紅皿である。第2層から出土した。

遺構は土坑を7、ピットを十数基とトレンチの南端で落ち込みを1検出した。



第45図 98-4-2区 bトレンチ 包含層 出土遺物

土坑1（第42図）

東西0.60m以上、南北1.40m、深さ0.24mで、地山面から切り込んでいる。埋土は茶色土で、遺物は出土しなかった。

土坑2（第42図）

東西0.70m以上、南北1.80m、深さ0.15mで、土坑6を切っており、ピット2に切られている。埋土は茶色土で、遺物は出土しなかった。

土坑3（第42図）

トレンチの北側で検出した。東西0.45m、南北0.67m、深さ0.18mの楕円形土坑である。埋土は茶色土で、遺物はサヌカイト、土師器が出土した。

土坑4（第42図）

東西1.10m、南北1.65m、深さ0.14mで、埋土は茶肌色土である。遺物は土師器が出土した。

土坑5（第42図）

東西0.55m、南北0.78m、深さ0.12mで、土坑3に切られている。埋土は茶肌色土で、遺物は出土しなかった。

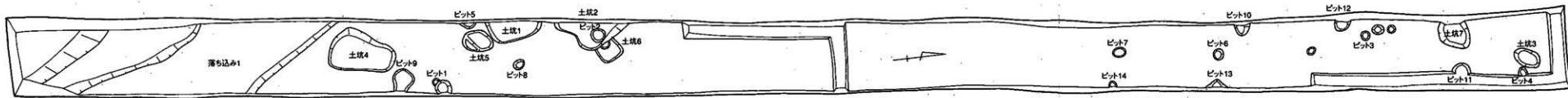
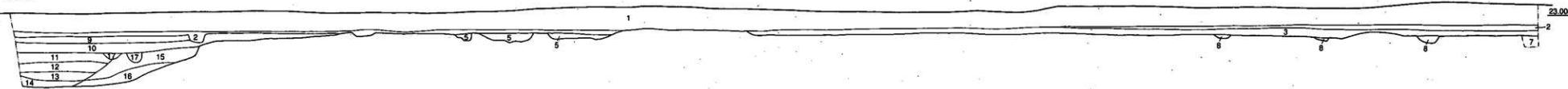
土坑6（第42図）

東西0.70m以上、南北0.58m、深さ0.11mで、土坑2に切られている。埋土は茶肌色土で、遺物は出土しなかった。

土坑7（第42図）

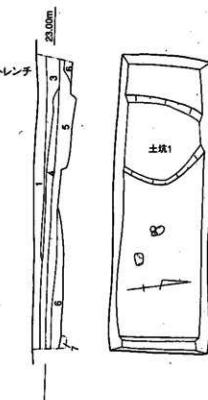
トレンチの北側で検出した。東西0.70m以上、南北0.78m、深さ0.18mで、埋土は茶肌色土である。遺物は出土しなかった。

bトレチ



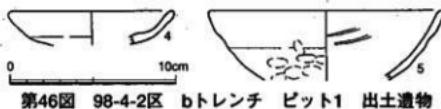
- 1 耕作土
- 2 泥乳灰色砂質土
- 3 淡茶灰色土
- 4 淡褐灰色砂質土
- 5 茶色土
- 6 深茶色土
- 7 地山:淡茶灰色風化礫混土
- 8 土坑:ビット:茶色土
- 9 落ち込み:淡茶色砂質土
- 10 落ち込み:茶色砂質土
- 11 落ち込み:褐色粘質土
- 12 落ち込み:茶褐色粘質土
- 13 落ち込み:暗灰黑色粘質土
- 14 落ち込み:褐色粘質土
- 15 落ち込み:黒褐色粘質土
- 16 落ち込み:黒褐色風化粘質土
- 17 灰色砂

第42図 98-4-2区 aトレチ・bトレチ 平面図・断面図



ピット群（第42図）

十数基のピットを検出したが、遺物が出土したピットのみ下記に記した。



ピット1（第42・46図）

直径0.35m、深さ0.14mで、埋土は乳茶灰色風化礫混土である。遺物は土師器、瓦器が出土した。4は土師質土器の小皿、5は瓦器碗である。

ピット2（第42図）

直径0.36m、深さ0.13mで、土坑2を切っている。埋土は濃肌茶色土で、遺物はサヌカイト、土師器、須恵器、瓦器が出土した。

ピット3（第42図）

直径0.26m、深さ0.14mで、埋土は第3層淡茶灰色土である。遺物は縄文土器、土師器が出土した。

ピット4（第42図）

直径0.25m、深さ0.21mで、埋土は第3層淡茶灰色土である。遺物はサヌカイト、縄文土器、土師器が出土した。

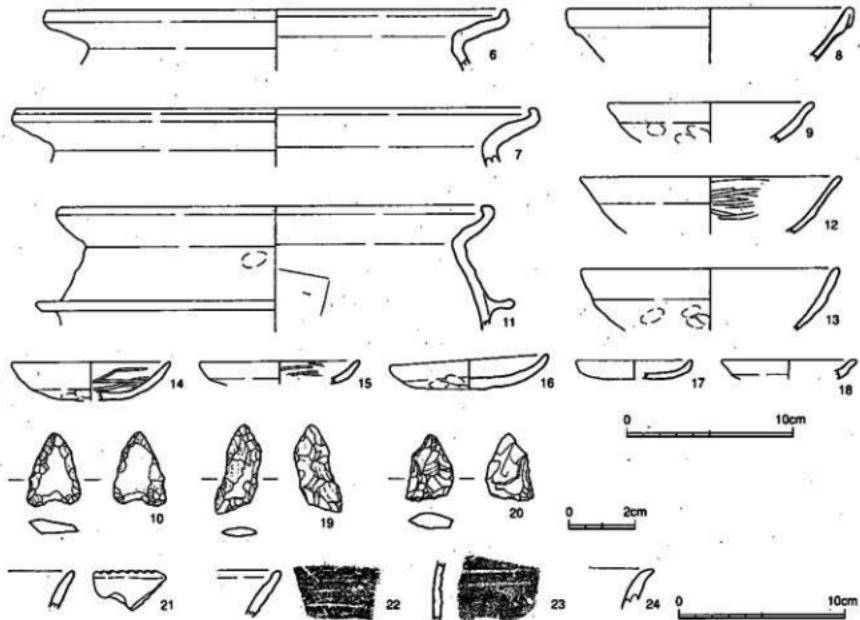
ピット5（第42図）

直径0.28m、深さ0.09mで、地山面から切り込んでいる。埋土は茶色土で、遺物は土師器が出土した。

落ち込み1（第42・47図）

トレンチ南部で南西側に落ち込んでいる。菟砥川の氾濫時に削られたものと思われる。深さ1.34mで、8層の堆積層が確認された。第1層は淡茶色砂質土、第2層茶色砂質土、第3層褐色粘質土、第4層茶黒色粘質土、第5層暗灰黒色粘質土、第6層褐茶色粘質土、第7層黒褐色粘質土、第8層黒褐色礫混粘質土である。第1～3層から中世期、第4層から奈良・平安時代、第5・6層から縄文時代の遺物が出土した。

6・7は土師質鍋で、いわゆる紀伊型のもの。8は白磁碗で、6～8は第1層から、9は瓦器碗で第2層から出土した。10はサヌカイトの石鎌、11は紀伊型の土師質鍋、12～15は瓦器の碗と皿、16～18は土師質小皿で、第3層から出土した。19・20はサヌカイトの石鎌、21～24は縄文土器で晩期のものである。19～24は第5層から出土した。



第47図 98-4-2区 bトレンチ 落ち込み1 出土遺物

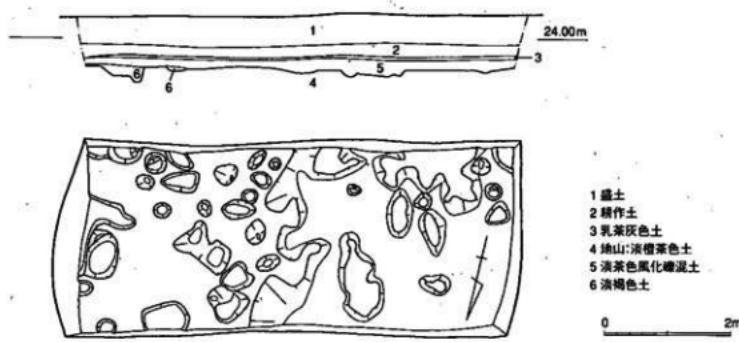
まとめ

造構はすべて中世期のもので、縄文時代の包含層は存在しなった。しかし、落ち込みの第5層以下は縄文時代の可能性が高い。

00-6区（第48図）

多くの縄文土器や土坑墓が検出された、98-4-1区・00-5区の南東約10mに位置する。調査は7.5m×3.0mのトレンチを設定して行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3乳茶灰色土、第4層淡橙茶色土の地山である。



第48図 00-6区 平面図・断面図

遺構は倒木痕思われる不定形土坑が検出されたのみである。埋土は淡茶色風化礫混土と淡褐色土で、遺物は出土しなかった。

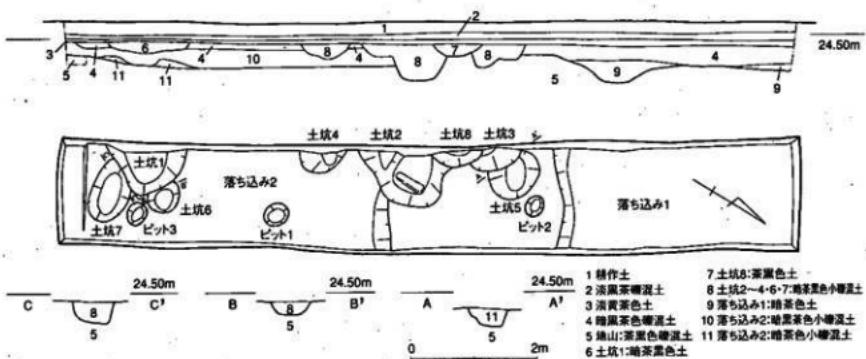
まとめ

今回のトレンチの南側との比高差は現状で約0.6mであることから削平されたものと考えられる。

01-1区（第49~55図）

前述した98-4-1区・00-5区トレンチの南側約40mに位置し、地山面の比高差は約0.7mである。調査は11.8m×1.7mのトレンチを設定して行った。

基本層序は第1層耕作土、第2層淡黒茶色礫混土、第3層淡黄茶色土、第4層暗黒茶色礫混土、第5層茶黑色礫混土の地山である。



第49図 01-1区 トレンチ平面図・断面図

遺物は第2~4層からサヌカイト、縄文土器が出土した。それに加え、第2層から土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶器、磁器、鉄釘、瓦が、第3層から弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、白土器が出土した。第2層は近世期、第3層は中世期、第4層は縄文時代の包含層である。

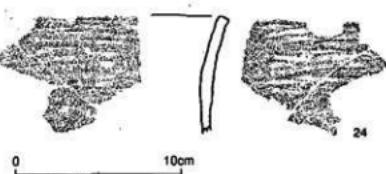
1・2・18はサヌカイトの石鎌、3・4はサヌカイトのスクレーパーである。5~17・19~23は縄文土器の深鉢と浅鉢で、晩期のものである。1~17は第3層、18~23は第4層から出土した。

遺構は土坑を8、ピットを3、落ち込みを2検出した。全て縄文時代の遺構である。

土坑1（第49・51図）

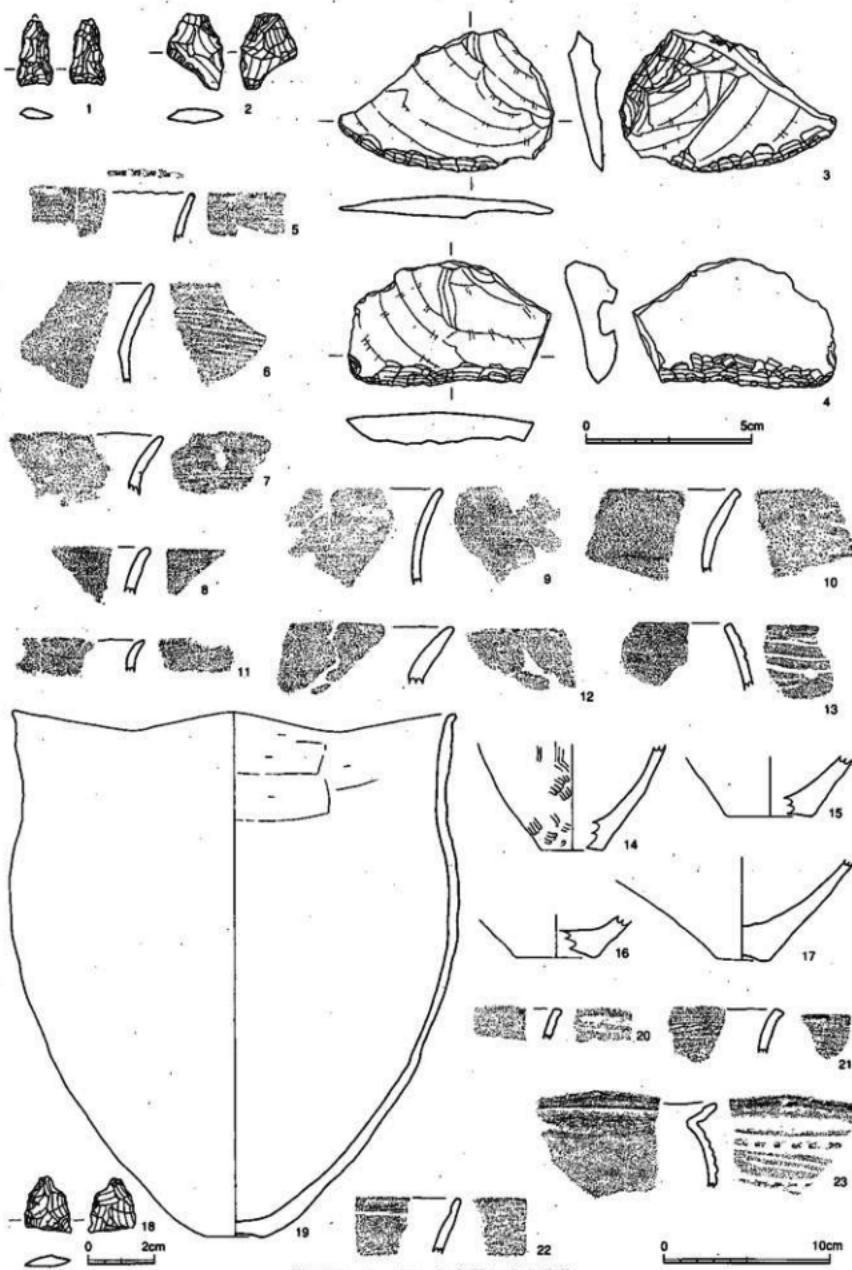
東西1.30m以上、南北0.70m、深さ0.18mの大形土坑で、西側はトレンチ外に拡がる。第4層の上面から切り込み、埋土は暗茶黒色土である。遺物はサヌカイト、縄文土器が出土した。

24は縄文土器の深鉢で、晩期のものである。



土坑2（第49・52・53図）

南北10.50m、東西1.50m以上、深さ0.58mの不定形土坑で、西側はトレンチ外に拡がる。第4層上面から切り込み、土坑8に切られている。内部には数個の石が据えられ、底にも長さ0.50m、幅0.10mの石が据えられていた。埋土は暗茶黒色小礫混土で、遺物は縄文土器、サヌカイト、骨片が出土した。骨片は火を受けているが、人骨の可能性が高いことから墓坑の可能性が考えられる。

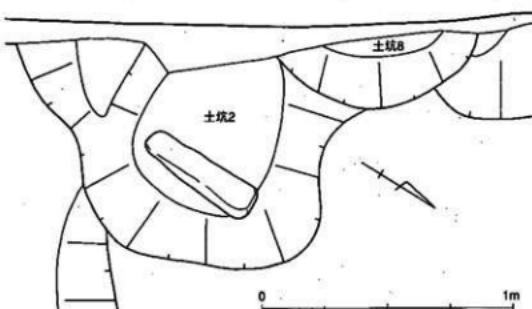


第50図 01-1区 包含層 出土遺物

25~44は縄文土器の深鉢及び浅鉢で、晩期のものである。

土坑3（第49図）

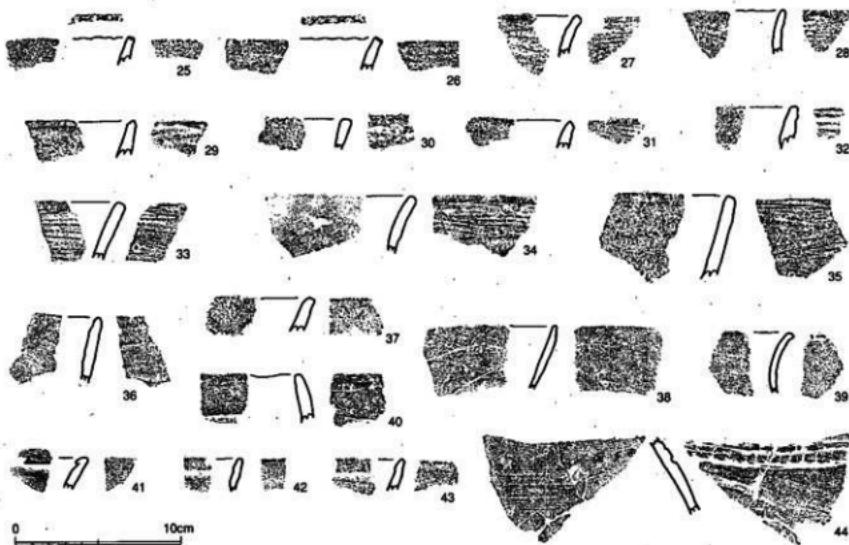
東西0.35m以上、南北0.80m以上、深さ0.36mの土坑で、第4層上面から切り込み、土坑8に切られ、土坑5を切っている。埋土は暗茶黒色小砾混土で、遺物はサヌカイト、縄文土器が出土した。



第52図 01-1区 土坑2 平面図

土坑4（第49図）

東西0.30m以上、南北0.76m以上、深さ0.23mの土坑で、第4層上面から切り込んでいる。埋土は土坑3と同じ暗茶黒色小砾混土で、遺物は出土しなかった。



第53図 01-1区 土坑2 出土遺物

土坑5（第49図）

東西0.85m以上、南北0.80m以上、深さ0.28mの土坑で、第4層上面から切り込み、土坑3に切られている。埋土は暗茶色小砾混土で、遺物は縄文土器が出土した。

土坑6（第49図）

東西0.40m以上、南北0.62m、深さ0.20mの楕円形土坑で、土坑1に切られている。埋土は暗茶黒色小砾混土で、遺物は縄文土器が出土した。

土坑7（第49図）

東西0.90m以上、南北0.60m、深さ0.33mで、土坑1に切られている。埋土は土坑6と同じ暗茶黒色小砾混土で、遺物は出土しなかった。

土坑8（第49図）

東西0.25m以上、南北0.82m、深さ0.19mで、土坑2・3を切っている。埋土は茶黒色土で、遺物は出土しなかった。

ピット1（第49図）

直径0.37m、深さ0.23mで、埋土は暗茶黒色小砾混土である。遺物はサヌカイト、縄文土器が出土した。

ピット2（第49図）

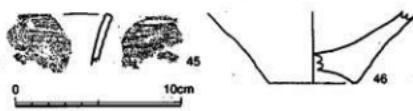
直径0.30m、深さ0.09mで、埋土は暗茶黒色小砾混土である。遺物は出土しなかった。

ピット3（第49図）

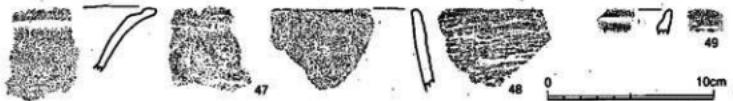
直径0.35m、深さ0.12m、埋土は暗茶黒色小砾混土で、炭化物が混じっていた。遺物は出土しなかった。

落ち込み1（第49・54図）

トレンチの北側で検出した。埋土は暗茶色土である。遺物はサヌカイト、縄文土器が出土した。45・46は縄文土器である。



第54図 01-1区 落ち込み1 出土遺物



第55図 01-1区 落ち込み2 出土遺物

落ち込み2（第49・55図）

トレンチの南側で検出した。埋土は上層が暗黒茶色小礫混土で、炭化物を含んでいた。下層は暗茶色小礫混土である。遺物は各層から縄文土器が出土した。47~49は上層から出土した縄文土器で、晩期のものである。

まとめ

本調査区は範囲確認調査トレンチの最南部で、最高所に位置する。その為か、縄文時代の包含層も若干残っていた。

土坑2は石の配置や骨の出土から墓坑の可能性が高い。また、第4層からも骨が出土している。但し、平成9(1997)年の(財)大阪府文化財調査研究センターの発掘では後期の墓坑が主であったが、今回の範囲確認調査では晩期の遺物が主であった。住居跡と思われるものは検出されなかった。

第4章 おわりに

調査は北から現況の標高により、低い方からA地区、B地区、C地区の3調査区に分けて報告した。

A地区は平成9(1997)年度に、(財)大阪府文化財調査研究センターが行った調査区から約150m北西に位置する。00-2区・99-3区の両トレンチからは縄文時代の遺構や遺物は検出されなかったが、00-2区の約50m北に位置する既往の調査区の96-1区・96-2区の包含層からは、縄文時代後期～晩期の土器が数点出土している。

00-2区aトレンチからは古墳時代中期の竪穴住居1棟が検出され、99-3区の包含層からは古墳時代中期の完形品に近い須恵器が多数出土した。(財)大阪府文化財調査研究センターの調査区では、弥生時代後期から古墳時代初頭の竪穴住居跡が10基検出されているが、その集落が西部に移動しながら続いている可能性も考えられる。

B地区は(財)大阪府文化財調査研究センターが行った調査区の西側に位置する。99-1区、99-2区からは縄文時代の遺構、遺物は検出されなかった。

00-4区は(財)大阪府文化財調査研究センターの調査区に近接している。縄文時代の包含層の存在が確認され、遺物は出土しなかったものの、形態からみて縄文時代の遺構の可能性が高い土坑が検出された。00-7区からは縄文時代の遺構は検出されなかったが、包含層からは石器や縄文土器が出土した。

本市教育委員会が個人住宅の建築に伴い行った03-3区の調査では、縄文時代晩期の土坑数基と遺物が検出された。この調査区は現況の標高や位置的にはC地区に位置するものであるが、縄文時代の遺構検出面は北部約30mに位置するB地区の99-1区とほぼ同じ高さであった。

C地区的98-4-2区では縄文時代の遺構は検出されていない。また、00-6区は03-3区と98-4-1区・00-5区の間に位置しながらも倒木痕以外は検出されなかった。

98-4-1区・00-5区と01-1区からは縄文時代の遺構や遺物を多数検出した。

特筆すべきことは01-1区の土坑から人骨と思われる骨片が出土したことである。また、現在整理中であるが、(財)大阪府文化財調査研究センターが行った調査区の東側に隣接する00-1区の土坑からも火を受けた人骨片が出土したことを申し添える。

この調査から縄文時代の墓地群の範囲がさらにC地区とB地区の南側の一部に拡がっており、西部は後期よりも晩期の遺構の分布が多いことなどが分かった。

また、古墳時代中期の住居跡や中世瓦の出土から、新たな中世寺院の存在の可能性など多くの発見があった。

縄文時代の大規模な墓地群は発見されたものの、その生活域の存在は未だ不明である。また、向出遺跡と山中川を挟んで対峙する高田遺跡でも若干の縄文土器が出土しているが、遺跡の詳細は不明である。今後の課題としたい。

報告書抄録

ふりがな	むかいでいせきはんいかくにんちょうさほうこくしょ						
書名	向出遺跡範囲確認調査報告書						
副書名							
卷次							
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告						
シリーズ番号	36						
編著者名	田中早苗						
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課						
所在地	〒599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 0724-71-5678						
発行年月日	2005年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	北緯 。' "	東経 。' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
むかいでいせき 向出遺跡	はなんんし 阪南市 じねんだ 自然田	27232	43	34°20'58"	135°15'56" 1999.1.12 2002.1.24	580	範囲確認 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
向出遺跡	散布地・墓地	縄文 ～近世	堅穴住居・溝・ 土坑・ピット		サヌカイト・縄文土器・ 弥生土器・土師器・ 須恵器・土師質土器・ 瓦器・陶器・磁器・瓦 など		



00-2区 aトレンチ北側（東より）



00-2区 aトレンチ 北側断面



00-2区 aトレンチ（南より）



00-2区 aトレンチ 竪穴住居1 北側断面



00-2区 aトレンチ 竪穴住居1 遺物出土状況（北より）



00-2区 bトレンチ全景（北より）



99-3区 トレンチ全景（東より）



99-3区 トレンチ 南側断面



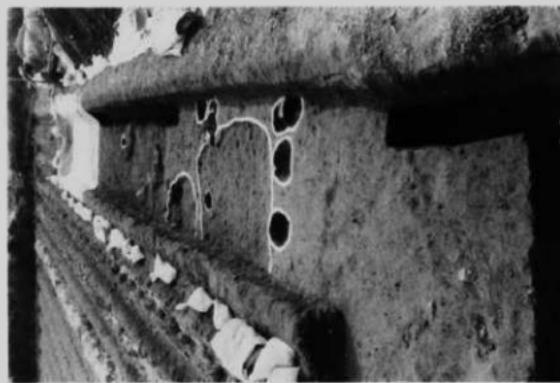
99-3区 遺物出土状況（東より）



99-2区 aトレンチ (東より)



99-2区 aトレンチ 落ち込み1付近 北側断面



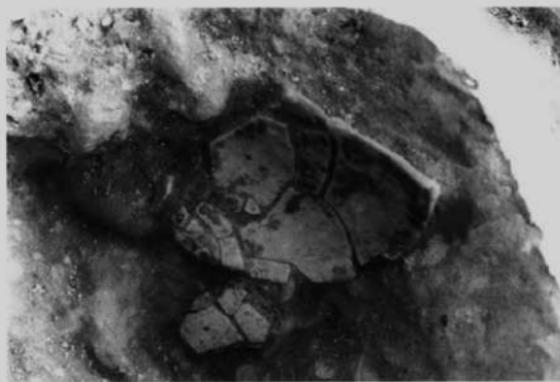
99-2区 bトレンチ 第1層直下遺構面 (北より)



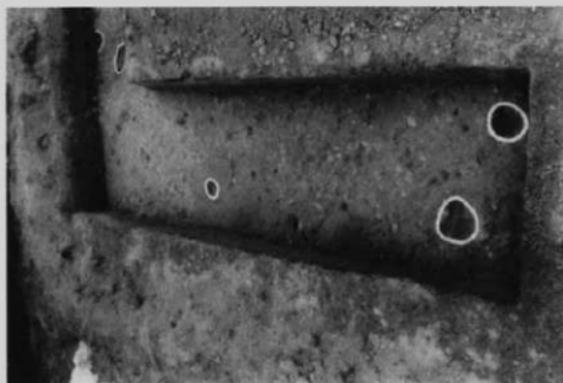
99-2区 bトレンチ 土坑9 南側断面



99-2区 bトレンチ 土坑10付近 西側断面



99-2区 bトレンチ ピット13 遺物出土状況（北より）



99-1区 トレンチ（南より）



99-1区 トレンチ 西側断面



99-1区 トレンチ北側（東より）



00-4区 トレンチ（南より）



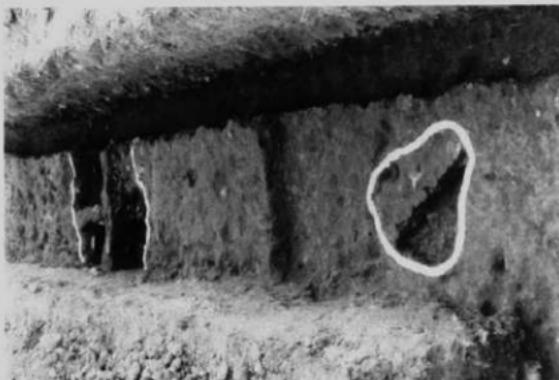
00-4区 トレンチ（南より）



00-7区 トレンチ全景（西より）



98-4-1区・00-5区 トレンチ北側上層遺構面（東より）



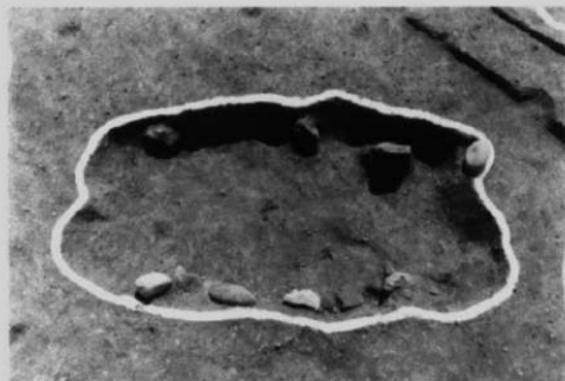
98-4-1区・00-5 土坑7・8（北より）



98-4-1区・00-5区 トレンチ西側断面



98-4-1区・00-5区 トレンチ南側（南より）



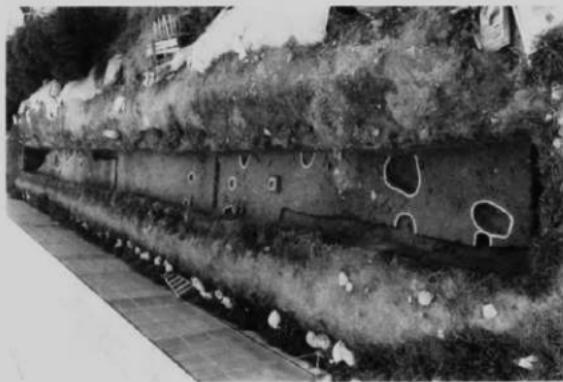
98-4-1区・00-5区 土坑20全景（北より）



98-4-1区・00-5区 土坑13全景（西より）



98-4-2区 aトレンチ全景（西より）



98-4-2区 bトレンチ全景（北より）



98-4-2区 bトレンチ 西側断面



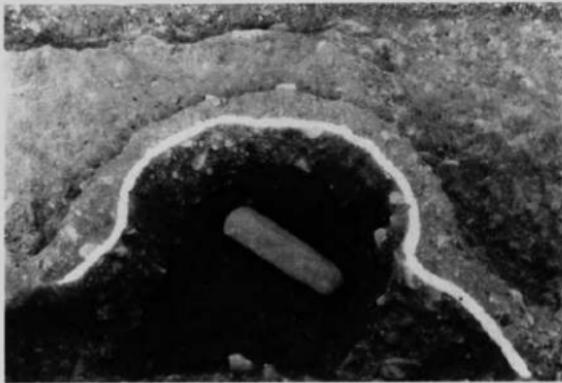
00-6区 トレンチ全景（西より）



01-1区 トレンチ全景（南より）



01-1区 遺物出土状況（東より）



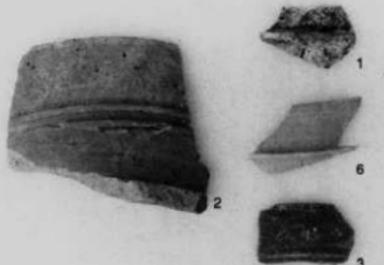
01-1区 土坑2全景（西より）



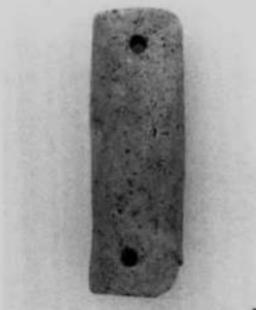
01-1区 土坑2 西側断面



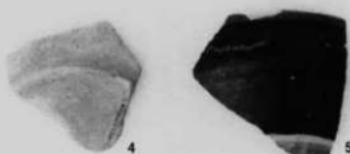
01-1区 土坑2 石棒出土状況（東より）



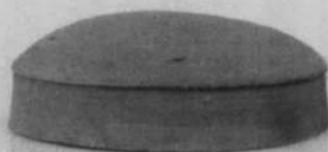
00-2区 aトレンチ 包含層



00-2区 aトレンチ 包含層



00-2区 aトレンチ 包含層



00-2区 aトレンチ 竪穴住居1



00-2区 aトレンチ 竪穴住居1



00-2区 aトレンチ 竪穴住居1



11

00-2区 aトレンチ 溝2



1



18



13



17



16



15



14



12



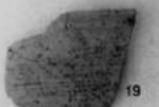
11



2



21



19



24



23



25



22



20

99-3区 包含層



3



4



5



6



7



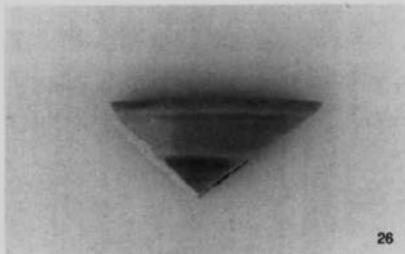
8



9

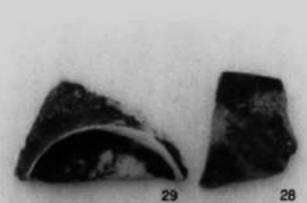


10



26

99-3区 溝2



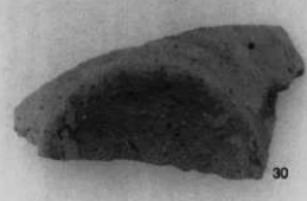
29

28



32

99-3区 ピット2



30

99-3区 ピット1



31

99-3区 ピット2



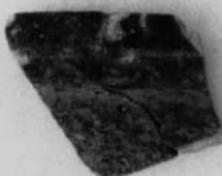
27

99-3区 ピット1



33

99-3区 ピット11



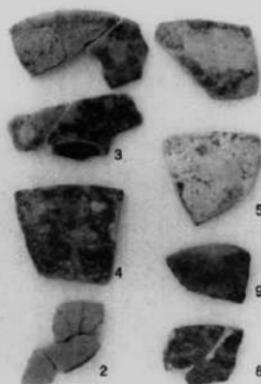
99-1区 包含层

1

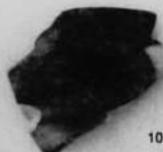


99-2区 包含层

1



99-2区 包含层



10



11

99-2区 包含层



7

99-2区 包含层



12

99-2区 包含层



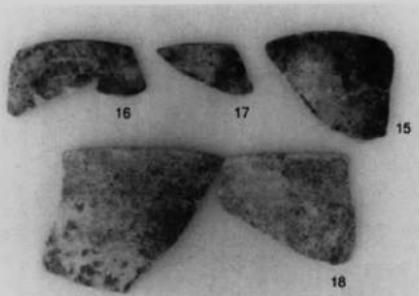
13

99-2区 包含层



14

99-2区 包含层



99-2区 土坑1



99-2区 ピット4



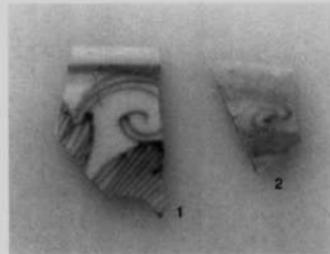
99-2区 ピット13



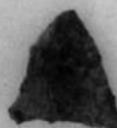
99-2区 ピット15



99-2区 落ち込み1



00-4区 包含層





00-7区 包含層



4



2



3

00-7区 包含層



5

00-7区 包含層



2



3



1

98-4-1区・00-5区 包含層



6

00-7区 落ち込み1



4



8



5



7



6

98-4-1区・00-5区 包含層



10



11



9

98-4-1区・00-5区 包含層



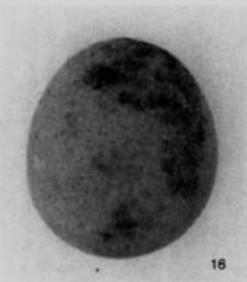
13



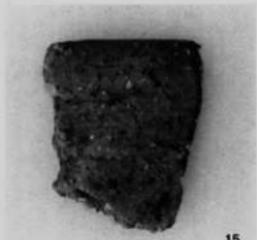
14



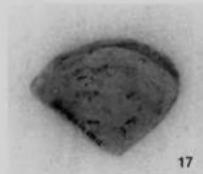
98-4-1区・00-5区 包含層



98-4-1区・00-5区 包含層



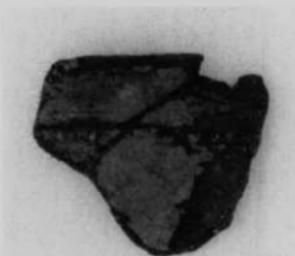
98-4-1区・00-5区 包含層



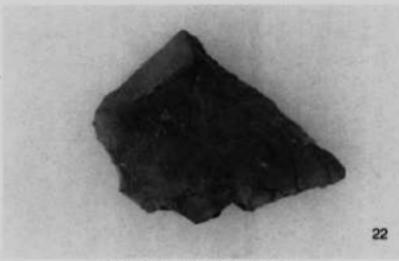
98-4-1区・00-5区 土坑9



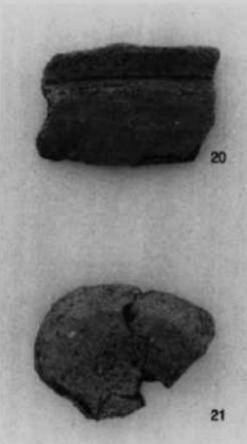
98-4-1区・00-5区 土坑12



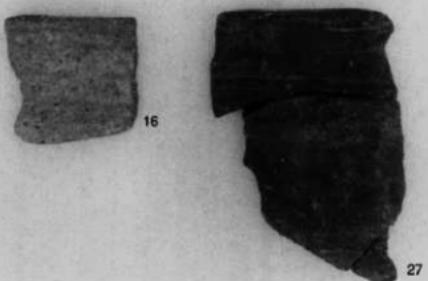
98-4-1区・00-5区 土坑13



98-4-1区・00-5区 土坑14



98-4-1区・00-5区 土坑14



98-4-1区・00-5区 ピット54



24



23



25

98-4-1区 土坑20



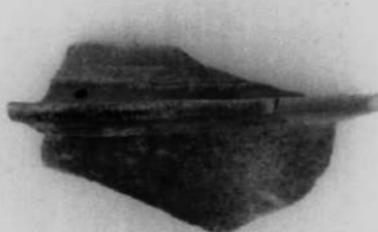
26

98-4-1区 土坑20



1

98-4-2区 aトレンチ 包含層



2

98-4-2区 aトレンチ 包含層



4

98-4-2区 aトレンチ 土坑1

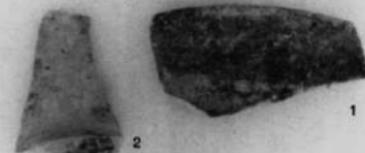


3

98-4-2区 aトレンチ 土坑1



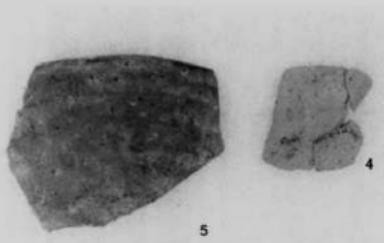
3



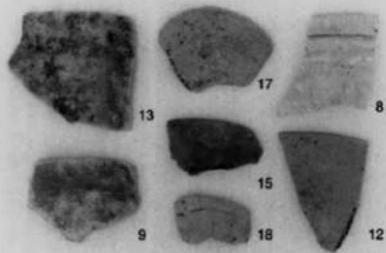
2

1

98-4-2区 bトレンチ 包含層



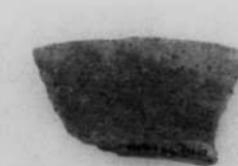
98-4-2区 bトレンチ ピット1



98-4-2区 bトレンチ 落ち込み1



98-4-2区 bトレンチ 落ち込み1



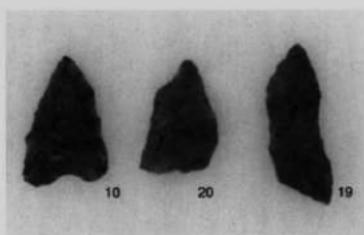
98-4-2区 bトレンチ 落ち込み1



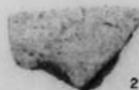
98-4-2区 bトレンチ 落ち込み1



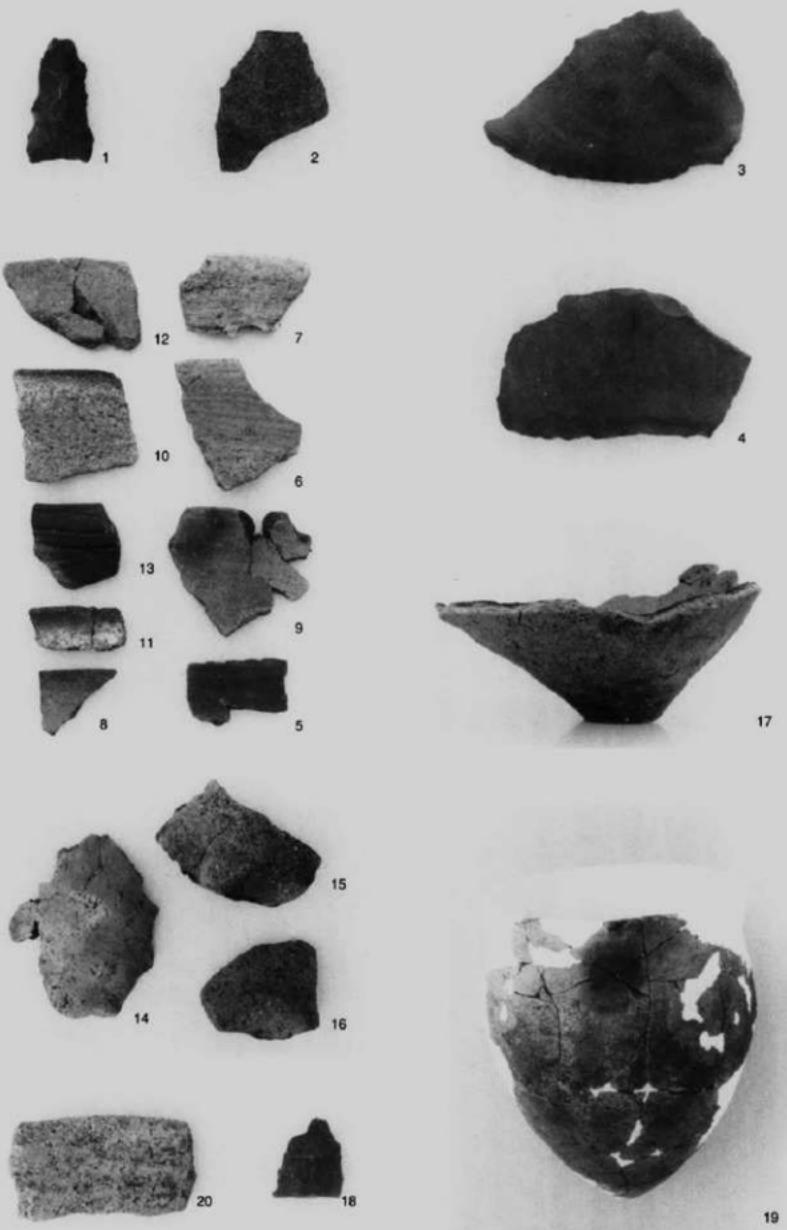
98-4-2区 bトレンチ 落ち込み1



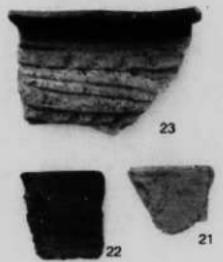
98-4-2区 bトレンチ 落ち込み1



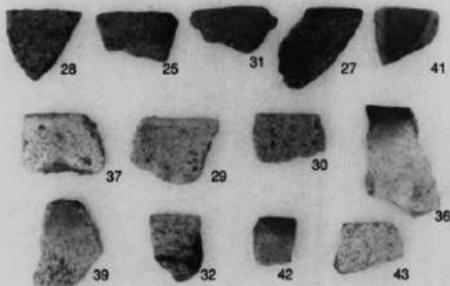
98-4-2区 bトレンチ 落ち込み1



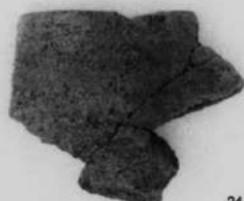
01-1区 包含層



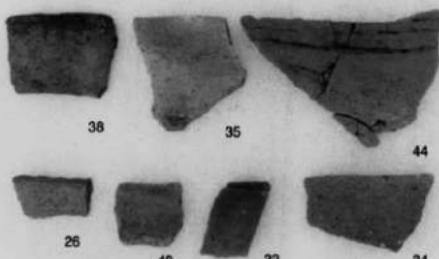
01-1区 包含層



01-1区 土坑2



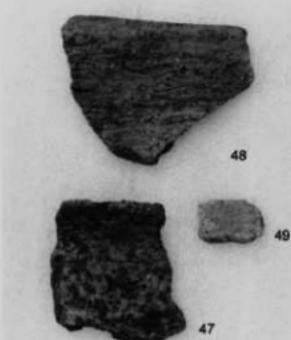
01-1区 土坑1



01-1区 土坑2



01-1区 落ち込み1



01-1区 落ち込み2

向出遺跡範囲確認調査報告書

2005年3月

発行：阪南市教育委員会生涯学習推進課
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：南海印刷
和歌山県那賀郡岩出町山545